

法輪大法

北米第一回法会での説法

李 洪 志

北米第一回法会での説法

李洪志

一九九八年三月二十九日、三十日ニューヨークにおいて

私はこの法会に参加しにきたので、皆さんと同じように、皆さんの体験を聞いてみたいと思います。当時私がこの法会を開こうと提案したのです。なぜならば、全米の大法学習者交流会を開いたことがないので、皆一緒にお互いに交流しあったほうが良いと思って、しかも時機も熟しているからです。前回私がアメリカに来て説法してから、今日まで既に一年経ち、この一年の修煉を通じて皆さんは向上しています。特に前回の説法を聞いた後、自分の向上に対してある程度の促進作用があると皆感じています。しかし、一体どのくらい向上したのでしょうか？やはり一度交流したほうが良いのです。しかも大法を更に弘めることもできます。

大法を弘めることに言及しましたが、現在ある間違った認識があります。先生が時間を大切に着実に修煉すべきだとおっしゃったから、何もせず時間を大事に着実に修煉しようと理解してしまった人がいます。もちろん、常人の仕事をしなくなるということではありません。常人の仕事と修煉の関係を皆さんは正しく扱うことができますが、大事なのは法を弘めることに対して皆さんが重視していないということです。皆さんは法を得ましたが、まだ法を得ていない人がいます。実は皆さんに教えますが、今日の人類社会の人の中に人間になるべき人は一人もいません。どういう意味でしょうか？ 私はこの法を伝えるために、歴史の相当久しい年代に既に按排したのであって、しかもこれほど大きな法を伝え、宇宙全体の法を伝えました。この前サンフランシスコで私が宇宙の構造について皆さんに話したので、多くの方は「なるほど、宇宙の構造はこういうものだ」とある程度認識するようになりました。実は皆さんに教えますが、前回私が皆さんに話した宇宙の構造という概念を皆さんはとてつもなく大きいと思っていますが、この概念は天体の中でそれも一粒の塵芥なのです。ですから、この宇宙がどれほど大きいのかを皆さん考えてみてください。これほど大きい法が人類社会で伝えられ、一人の人間を容れようと思えばいとも簡単なことです。最も簡単な例を挙げて説明しますが、溶鋼に木屑が落ちたら、瞬時にその姿が見えなくなります。これほど大きな法をもって、あなたという一人の人間を容れ、あなたの体にある業力を滅し、良くない考えを消してあげるなどなどは、いとも簡単なことです。これほ

ど大きな威力があるのに、なぜこのようにしないのでしょうか？ 常人社会でこのようにしてはならず、このようにしたら修煉も修煉として見なされなくなり、作り直すということになるからです。つまり、あなたを完全に捨てて、もう一人の人間を造ったということになります。ですから、必ず自分で真に修煉してはじめて、あなた自身になることができます。しかし、修煉の中で多くの心性上の関が現れ、また学習者の間に大法のことを良くするためにお互いに協調し合うことができないため、引き起こされたトラブルなどなどの問題があります。これらは皆必然的なことであり、ただ皆さんは認識していないだけです。

ある法が伝えられ、魔難がなく、後の人に残す威徳がなければ、私に言わせると、それは邪法になります。偉大に値することも、喜びに値することも、後の人に残す威徳もなく、必ずそうなります。私が伝えたこの法をあなたは得て、修煉することができますが、他の人がどのように修煉し、どのように法を得るかも考えるべきです。先ほど私は人類社会の全ての人々が人間になるためにこの世に来たのではないと言いました。しかし、うぬぼれてはいけません。この法を得なければ、元に戻るまで修煉することができなければ、あなたは他でもなく人間であり、更に落ちていき、人間にも及ばなくなる可能性さえあります。ですから、弘法することの重要性は皆さんも認識しなければなりません。このことについてはこれくらいにしましょう。

多くの学習者は私に次元の高い話、新奇な話をして欲しいと思っています。この心を取り除かなければ圓滿成就することができません。そうではありませんか？ 如何なる心も障碍なのです。今日のこの社会の発展、その発展の全過程は宇宙人にコントロールされ、推し進められているために生じたのであって、それによって発展してきたと私は話したことがあります。今日これらのことについてもう一回話します。もし私が中国古代の文化と言葉で話せば、更に明白に説明することができますが、皆さんが現在それを聞いても理解できず、観念も現代人の観念であるため、現代のこのような科学の知識と結びついて説かなければなりません。実はそれは非常にレベルの低いことであり、その認識が非常に非常に低いのです。いわゆる実証科学は人間の目で見ることのできるこの物質空間だけに局限していますが、この空間は三界内の一つの空間に過ぎません。三界内にどのくらいの次元の物質があるのでしょうか？ 数え切れないほど多くありますが、人類はその中の一層だけなのです。あなたの目で見ることのできるのはこの次元だけであり、このような範囲内に局限されています。この膨大な宇宙を人間の考えをもって量ろうとすれば、それは永遠に量ることのできないことです。なぜなら

ば、あなたの考えはそれを容れることができないからです。とても高い境地まで至ったら、人類の言葉は宇宙の状況を言い表すことができず、そのような言葉もなく、ひいてはそのような考えさえなく、何も説明することができなくなります。ですから、次元の高い話をしようとしても、人類の言葉で説明することのできるようなことではありません。皆さんが修煉の過程で絶えず向上してはじめて、徐々に自分で理解し、悟ることができます。この法を読む時、法はあなたを悟らせることができます。

なぜこの法はこれほど大きな作用を果たすことができ、あなたにそれほど次元の高いことを分からせることができるのでしょうか？ 実は皆さんに教えますが、一冊の本、つまりごく普通の常人の中の本は何枚かの紙と一緒に綴じられただけで、紙に活字があるだけで、何の作用も果たすことができません。このような本は人類の最も簡単な道理、人類に分かっている道理を表現することができますが、これだけに過ぎません。もし『轉法輪』の背後にその内涵がなければ、『轉法輪』もそれくらいのことしかできません。なぜ皆さんが繰り返して『轉法輪』を読む時に、とてもとても次元の高い異なる境地にある理を読み取り、悟ることができるのでしょうか？ つまり、各文字の背後に無数の重なり重なった佛、道、神がおり、数え切れないほどいるのです。在席の人がいくら高い次元まで修煉したとしても、いくら高い次元まで修煉したとしても、将来悟りを開いた後でも、あなたには果てが見えないのです。この本に従って修煉し、あなたはどこまで修煉することができるのでしょうか？ あなたが向上すべき時になると、この字の背後にいる佛、道、神はそれが見え、あなたがどの次元の理、どの次元まで至ったのかを知り、この字またはこの一文の背後にある本当の内涵をあなたに分からせるのです。あなたはかつ然として分かるようになります。実はあなたが賢くなったからではなく、神が意図的にそれをあなたに悟らせたので、あなたが分かるようになったのです。しかし、ここに厳しい要求があります。その境地まで修煉し、その境地に達していなければ、決してあなたにその次元の理を分からせることはありません。その次元の理が分かった時、あなたは既にその境地にいるのです。

多くの学習者は修煉の中で自分の表面での向上が非常に遅いと感じ、時々良くない考えと心が現れてくるので、とても焦っています。実は皆さんに教えますが、焦る必要はありません。私たちの今日の修煉形式は古来の全ての修煉形式と異なっていると言ってもよいのですが、同じであると言ってもよいのです。異なっていると言ったのは、私たちは如何なる小法、小道の道をも歩んでいないということです。同じであると言ったのは、以前の全ての古来の法は今日私たちが伝えて

いるこの宇宙大法の中の最も低くて局所的な修煉形式に過ぎないからです。もちろん、私たちは大法を伝えており、その威力にしても、私たちが歩んだ道にしても、人を濟度する方式にしても、全て最も良いものを選びました。ですから、この法はこれほど大きな作用を果たせないはずがあるのでしょうか？ 先ほど私は本の背後にそれほど大きな内涵があるということについて話しました。

私が皆さんに教えた佛、道、神は存在しないものではなく、それは本当の佛、道、神であり、この法の中に現れてきます。佛、道、神にはそれほど大きな威力があり、佛、道、神は字の背後にいて、大きくなる時に果てが見えないほど大きくなります。これは佛、道、神の役目であり、佛、道、神は法の現れなのです。ですから、この法が一人の人間を容れるのはいとも簡単なことです。今まで全ての法、全ての修煉形式は宇宙の洪大な法の中の低い次元での幾つかの形式に過ぎず、しかも比較的次元の低いものです。もし時間があれば、後で皆さんにある一定の次元における宇宙の構造について話します。

まず、法の勉強の重要性について話します。つまり、法の勉強によってあなたが向上することができるのは、法の背後に内涵があるからです。他の本を読む場合、なぜこの境地まで達することができないのでしょうか？ この状態に達することができないのでしょうか？ その本の中に何もないからです。しかし、何もないということでもありません。人によってそれぞれの状態も違うからです。私がいつも言っていますが、それらの良くない宗教の本を、もちろん私が指しているのは邪教や良くない宗教の本と良くない気功の本ですが、手元に残してはいけません。なぜならば、その文字の背後にも幾らかのものがあり、それらのものが存在しています。しかし、それは佛でも、道でも、神でもなく、つき物や幽霊などのでたらめな物です。人間の体は服のように、人間の考えは帽子のようであり、誰かがそれを着たり被ったりすると、その人になります。なぜこのようになるのでしょうか？ 人間はここまで弱くなり、誰もが人間を制御することができ、妨害することができるからです。人間は気の毒ではありませんか？ しかし、気の毒であっても仕方ありません。人間が自らここまで落ちたからです。私たちの全ての人、法を勉強している在席の皆さんに実は皆大変な困難があります。各種の妨害と厄介なことがあり、法を勉強すると仕事が忙しくなり、時間が足りない、などなどがあります。それが一種の自然的な現象だと皆さんは思っていますが、実は各方面からあなたを妨害し、あなたが法を得られないようにしています。この法が良くないと言っている人が確かにいますが、このような人がどういう人なのかを別として、彼の考えは彼のものではなく、他の人になっているかもしれま

せん。それらの良くないものがこの人を操ってこういうことを言わせているのです。このような人を私たちは済度することができません。既に自分ではなくなった人をもう済度することができないということでしょうか？ 本人にこれほど悪い考えがあるからこそ、利用されたのであって、直接大法を破壊している人を済度することはできません。極めて悪くなり、完全に理性を失った人が悪いものに制御されてそういうことを言ったりやったりしたのですが、これも自分自身が自らを支配することができなくなったからです。私たちの法は本人が分かっている状態下で修煉させているので、本人自身は頭がしっかりしておらず、自ら進んで外来の意識に制御されてしまうのであれば、私たちの法はなぜ悪いものに制御され得るのでしょうか？ ですから、この法をこのような人に与えることができません。

修煉の中で修煉者は多くの困難に遭うのです。時に皆さんが修煉の時に多くの苦を嘗めているのを見て、私もとても辛いのです！ 学習者が関を乗り越えることができなかつた時、涙を流しながら辛そうに私の肖像を見て、難をもう少し消し、解脱してくれるようにと心の中で先生にお願いしていますが、その時の私の考えをご存知でしょうか？ この難を無くしてしまえば、あなたは向上する機会を失ってしまいます。何の難もなく、平穩にそれほど高い境地まで向上することができるのでしょうか？ これは絶対許されないことです。ご存知のように、人間は生々世々において多くの業を造りました。イエスが言ったように、人間に罪があるのです。造ったこれらの業と罪を償わずに、天国に行きたいからといって、すぐにこれらの業と罪を投げ捨てて天国に行ってしまうのでしょうか？ 皆さん考えてみてください、これは許されるのでしょうか？ 絶対許されません。ですから、必ず自分で自分が造った借りを返し、これらの業力を消さなければなりません。業を消すと同時に、心性も高まらなければならず、それほどの高い境地に達してからはじめて、そこまで昇華することができます。私たちをそこまで昇華させてくれたのは他でもなく法なのです。

修煉の中であなたは多くの魔難に遭います。真面目に法を勉強していれば、どんな難でも乗り越えることができます。真面目に法を勉強していれば、心の中の解すことのできないしこりや、乗り越えられないものは全部法の中でその答えを見つけることができ、解すことができます。どのように人間として振舞い、天人として振舞うべきかがこの法に含まれており、更にどのように佛、道、神ないし更に高い境地での神として振舞うべきかも私が皆さんに教えたので、あなたの心のしこりを解すことができないはずがあるのでしょうか？ あなたの考え

を開くことができないはずがあるのでしょうか？ あなたの問題を解決することができないはずがあるのでしょうか？ 全部できます。多くの場合、わたし達は長い生活の中で人類社会で各種の観念を形成し、それを放棄したくないのです。それぞれの分野で何かの成果や業績を取ったら、その業績を手放さず、常人の中で学んだ、いわゆるあなたが正しいと思っている観念を抱いて放しません、多くの場合はこれらのものが一部の人を阻害しています。更に、多くの人々が常人の社会で染まった習慣や、または処世術、人間として追求すべきもの等もあります。これらのものは最も敏感で、刺激されたくないものです。それに触ると、こういうものはすぐ承知しなくなり、法をやめてもいいというようになってしましますが、これも仕方のないことです。法を学ぶかどうかは自分で決めることであり、誰も如何なる人をも強制的に学ばせてはいけません。

全ての人には法を勉強する時に障害があります。大まかに、概括的に話しますが、知識人が法を勉強する時、現在の科学からの障害を受けています。この科学と一致していることなら、受け入れますが、そうでなければ、受け入れられなくなります。このことは知識人をひどく妨害しています。私が法を説く時になぜ現在の科学と結びつけて話しているのかを誰も知りません。なぜこのように話さなければならぬのでしょうか？ 私はあなたのその殻、あなたが法を得ることを妨害している殻を破りたいからです。各宗教から影響を受けた人もいますが、彼の宗教に合っている観念なら、それが良いと言い、学びに来ますが、合っていなければ、学ばないのです。このような人を済度し、法を得てもらうために、私は宗教の中のことや、宗教が腐敗堕落した過程とその形式についても話しました。更に、普通の常人が常人社会で仕事を持っており、それを放下できないため、私の法は最大限に常人に合わせて修煉するようにともしました。実は私は皆さんに妥協しているわけではありません。この法は確かに仕事をしながら修煉することができますようにしています。他にも多くの状況があります。誰にも障害があり、放下できない一つもしくは多くの観念があります。人間にある如何なる観念も障害です。私は人類社会が今日まで発展したことによってもたらされた輝かしい成果に反対しておらず、人類が今日まで発展したことによって人類社会で積んだ経験にも反対していません。しかし、皆さんに教えますが、修煉者の皆さんは必ず考えの中からそれを放下しなければなりません。普通の常人なら、この輝かしい成果の中で、人間の観念の中で生きていくことができますが、修煉者として、これらの後天的な観念を放下しなければなりません。つまり私が言った最大限に常人に合わせて修煉するという道理です。常人の中で生活しているため、常人と同じように仕事をし、勉強をすれば良いのですが、人間の観念を放下しなければなりません。

人間の観念を放下したら、物質が何もかもなくなるということではなく、和尚のように、修道士のようになるということではありません。私が皆さんを常人の中で修煉させているので、皆さんは常人社会の状態に合っていなければなりません。つまり、あなたが本当に放下したのはその心です。人間がどうしても放下できないのはその心です。その心を本当に放下することができるようになった時、あなたは何も失っていないということに気づくのです。大法を勉強していること自体が福のあることなので、なぜ何かを失うことがあり得るのでしょうか？ あなたがもし本当に何かを失ったら、それはあなたが放下できないその心によってもたらされたことであり、いつもその心によって苦しめられていますが、このようにしてあなたにその心を放下させているのです。本当にあなたに何かの危機が起きることがありますが、この危機はあなたのその心を取り除くためのことです。どうしてもその心を放さず、どうしても抱いていれば、どうなるのでしょうか？ 対峙して解決されません。対峙していればいるほど、あなたの境遇、あなたの生活環境はますます悪くなります。本当にその心を放下することができるようになった時、状況はすぐに変化し、考えは直ちに楽になり、身体にも変化が起こり、全身が軽くなります。この時振り返ってみれば、あなたは何も失っておらず、しかも本当に中国人が言った「柳暗花明又一村」のように、突然良いことはまた舞い戻ってきます。

しかし、このような良いことがまた舞い戻ってきた時、いくらお金があっても、福が大きくても、困難が現れても、あなたは常人のように執着しなくなります。あなたは淡泊にこの全てを見ていますが、全てを持つようになります。これは良いものではありませんか？ どうしても苦しみながら、入り込んで自分のお金や仕事、欲望を手を掴んで放さず、そのため、食事も睡眠もろくにとれず、それでも失ってしまうのではないかと心配しており、このように生きていて楽しいのでしょうか？ 実は人間が放下できないのはその心です。人間が修煉しているからといって、人類社会は人類社会の状態を失ってしまうようなことはありません。人類の生存状態は永遠に保たれなければならない、あなたが人類社会をほしいと思ってもいなくても、人類社会はここに存在しています。ただ常人はその心を放下することができず、それによって自分を辛くしています。

もちろん、人間もとても複雑なのです。人それぞれの福はその人の前世、前々世、ひいては更に久しい異なる生存時期と関係しています。他の人が社長になっているのを見て、修煉すれば自分もその人のように社長になるのではないか、放

下すれば自分もその人のようになるのではないかと考えてはいけません。やはり違います。人類社会のように、それはあなた自身にあるものと関係しているのです。今日修煉しており、これほどの福がありますが、修煉していなくてもあなたにやはり同じ福があります。どこに差があるのでしょうか？ あなたの心がリラックスしているところに差があります。修煉していない場合、あなたの心は緊張しているのです。生きていくこと自体で既にくたびれていますが、その上あなたの心もくたびれているので、あなたはろくに食事も睡眠も取れなくなります。ですから、あなたの体はもちろん、疲れたり、衰えたり、悪化したりして、常人のように多くの病気にかかってしまいます。逆に、あなたはそれを放下することができれば、貧乏であっても平常心でいることができ、楽しく生きていくことができます。実は大法を学ぶことで貧乏になることはありません。私から見れば、このようにしたほうが執着しているよりましだと思います。しかし、人類の仕事をしなければならず、更に多くの人々が修煉するようになり、皆仕事をしなくなれば、これでは絶対いけません。私たちの心がどのようにこの関係を扱うかのことだけです。しかし、大法を学んでいれば、これは即ち福です。常人の心が取り除かれてから、大法は弟子に福をもたらしますが、これは決して社長になることに執着しているから得たものではありません。

また、法を勉強して問題に遭った時、解決できない問題に遭った時、いつも外に向けて求めてはならず、外に向けて探さないでください。例えば、学習者の間、または責任者の間に何か厄介なことが起きた時、あなたが正しいとか、あの人が間違っているとかとお互いに責め合っており、こういうことをやりだしたため、トラブルが起きて関係が悪くなりました。これは正しくありません。大法弟子にもしこの状態が現れ、心の中でこれらのことを不平に思っている時、あなたの心はつまり常人の中にあります。どんな問題に遭っても、法の中で答えを探し、自分を見るべきであり、私のどこが間違ったのかと自分の心を見るべきです。今日突然起きたこの問題に対して、私が間違ったのではないかとよく考えるべきです。

トラブルに遭った時、本当に自分のことを探すことができる人がどのくらいいるのでしょうか？！ もちろん、多くの方は異なる時期でこのようにすることができますが、多くの異なる時期でこのようにすることはできませんでした。自分の本当の原因を見つけた時、逃げずにそれに目を向け、それを認めることができる時、状況がすぐに変わるとあなたはきっと気づくのです。トラブルがなくなり、相手はなぜかあなたとの間に何もなかったかのようになり、何のトラブルもなかったかのようになります。なぜならば、修煉者にとって、如何なる偶然な機会も

存在しておらず、如何なる偶然なこともあなたの修煉の道を妨害してはいけなからです。

出会った全てのことは、即ちあなたが自分を修煉者として見なし、自分自身のどこが間違ってしまい、正しくないのかを探ることができるかどうかを見ているのです。あなたが自分を修煉者として扱うことができるかどうかのことです。私のこの話を覚えておいてください。つまり、あなたがもし本当に自分を修煉者として見なすことができれば、何かの出来事、トラブル、あなたの機嫌を損なう出来事に遭った時、表面においてあなたが正しいかどうかに関わらず、自分の原因を探さなければならず、この問題において気づきにくいあの動機が間違っただのではないかという状況です。もし修煉者が表面では放下しているだけで、内心ではまだ何かを守り固守していて、自分の最も本質的な利益が傷つかれないようにしていれば、皆さんに教えますが、これは偽りの修煉です！ 自分の心が動じなければ、少しも向上することができず、これは自らを騙しているのです。真に内心から向上することだけが、本当の向上なのです。ですから、皆さんくれぐれも覚えておいてください、どんな出来事や厄介なこと、不愉快なことに遭っても、または誰かとトラブルが遭った場合、必ず自分を調べ、自分を探すべきです。このようにすれば、あなたは解決されないその問題の原因を見つけることができます。多くの人が以前の気功ブームの時に自分自身の場が外まで影響することができると思っていますが、実はそういうことではなく、自分が間違っており、宇宙の特性にそぐわなくなったから、周りの全てはあなたと協調しなくなったのです。このような関係です。自分でそれを調整し、協調できるようにすれば、全ては順調になります。こういうことです。

法の勉強の中でもう一つの問題があります。一部の学習者の学法について言えば、精進していないといっても本は読んでいる者がいれば、精進しているといっても、まだ1冊も本は読み終えておらず、『轉法輪』をまだ読み終えていない者もいます。これがたいしたことのないことだと思わないでください。特に新しい学習者ですが、初めて本を読む時に最後まで読むことができなかつたら、それから時間と機会がなくなり、時間があっても、本を読むことを忘れてしまいます。なぜでしょうか？ 誰にも思想業力があり、この思想業力は利己的で良くないものだからです。あなたが学んでいるこの大法がこれほど正しくて良いものであり、大法に消滅されるのを見て、業力自身は怖くなり、続けて学ばせず、本を読ませないようにしています。途中で本を投げ出して、読まなくなったら、思想業力はあなたに続けて本を読む機会がないようにし、再び大法の本と接触する機会がな

いようにします。これはなぜ本を少し読んだ人が再び勉強する機会を作ることができなかったかの原因です。ですから、一旦この本を読むと、一回目は必ず最後まで読み終え、一気に読み通さなければなりません。一回目に読み終えたら、あなたの全ての良くない観念、あなたの考えに作用することができる全てのものはほぼ消されました。そして、続けて法を勉強する時に、この方面の障碍がなくなりました。ですから、学習者特に古い学習者はこのことにくれぐれも気をつけるべきです。他の人に学んでもらうときに（本人が読みたければの話ですが）、最後まで一回で読むようにと教えてください。もし一回目の時読み終えることができず、続けて読もうともしないとき、続けて読むようにと言ったら、「私に時間はないから、少ししか読みませんでした」と彼はきっとそう言います。実は彼はとても愚かな人です。私が既に言ったように、人間の体は衣服のようであり、誰かがそれを着たらその人になります。人間の考えは帽子のようであり、誰かがそれを被ったらその人になります。口で時間がないなどを言っていますが、実はこれは業力が言った話であり、彼に本を読ませないようにしています。彼にいろいろなことがあるようにし、本を読むことを思い出せないようにしています。これが法の勉強の中でよくあることなので、くれぐれも気をつけてください。

『轉法輪』は中国語版以外、外国語版の本の作用と中国語版の本の作用は全く同じです。しかし、ここであることに気をつけるべきです。大法を他の言語に訳す学習者はいつも議論しがちで、ここにこの意味、あの意味がありますが、それを訳していないとか、この言葉の訳が正しくないとか、あの言葉の意味が正しくないとか、いつもこのように議論し、訳を決めることができません。実は皆さんに教えますが、皆さんは間違ったのでしょうか？ 間違っただけではありませんが、間違ってもいます。なぜ間違っていないと言うのでしょうか？ あなたが言ったその意味は確かにあなたが理解したことだからです。しかし、それは常人を超えているもので、活字になって紙に残った内容は常人を超えてはいけけないので、翻訳の時、最大限に常人のこの境地での言葉の原義に合わせればよろしいのです。その背後に内涵があり、あなたに分かった道理があるのは、文字の背後にある要素が作用していることの結果です。これは翻訳の中でよく見られる問題です。

学習者が絶えず向上するにつれ、もう一つの問題が現れてくるので、ここではつきりと説明しなければなりません。特に白人の弟子、また他の人種の弟子のことですが、皆さんにあることについて話したいと思います。大法を修煉するにつれ、多くの人にある光景が見えてきます。つまり、学習者が修煉してできた体の多くは佛家の体ではなく、道家や神の体、白人の天国にいる神の形象をしている

体もあります。皆さんに教えますが、あなたがこの法門が良い、あの法門が良いと思っけていますが、それはあなたが常人の観念から認識していることであり、上の次元ではこのように認識していません。それでは、私たちの弟子の間になぜ異なる世界の体の形象をする人がいるのでしょうか？ それは皆さんが異なるところから来て、地球で異なる人種に生まれ変わったかもしれないからです。しかし、あなたが高い次元から下りてきた生命であれば、本質から言えば、あなたは絶対自分の元の世界に戻りたいと思っけています。先生の世界に行きたいとあなたが今思っけていますが、これはあなたが人間の考えで思っけていることです。ですから、皆さんの当初の願いはあなたの現在の人間としての願いでなく、この法に同化してから自らの元の世界に戻ろうと思っけています。ですから、私たちは皆さんが当初の自分の願いを叶えられるように保証することができます。わたしが伝えたこの法は佛家の基点から説かれたのですが、この法は宇宙全体の法であり、宇宙の異なる次元、異なる境地と単元世界にいる衆生の異なる次元の法理を含んでいます。

このことまで言及しましたが、ここでついでに他の角度から空間について話します。先ほど人間が異なる空間と次元から来たのだと言いましたが、ここでついでにこの宇宙の構造について話します。私が言ったことがあります、この地球は宇宙のほぼ中心に位置しています。地球のような球体は他のところで僅かばかり存在していますが、私たちのこのところだけが中心に位置しています。中心に位置している、それなりの特殊性があります。しかし、宇宙の中での概念について話していませんでした。一般常人社会で常人が知識を学ぶ時、中心が最高で、最も良いと皆思っけています。しかし、皆さんに教えますが、宇宙の概念の中で、中心に位置している地球が最も良くないのです。なぜでしょうか？ 宇宙が丸いのであって、宇宙にいる異なる生命は皆落ちていくものですが、どこへ落ちていくのでしょうか？ 宇宙が丸いので、この左が上であり、下も上ではありませんか？ この右が上であり（手で指し示す）、後ろも上であり、前も後ろなので、良くない生命は下へ落ちていくのです。どこへ落ちていくのでしょうか？ 中心へ落ちていくのではありませんか？ そうでしょう。しかし、宇宙はあまりに複雑なので、中心に関する他の概念もあります。

この宇宙にこれほど多くの次元がありますが、例えば、ほぼ三十億足らずの銀河系のような天体は一つの宇宙の範囲を構成しており、私たちは通常それを小宇宙と呼んでいます。更に、三千のこのような小宇宙が他にもあります。それらの間に相当な距離があります。普通の人間にこの概念はありません。普通の神の概

念で考えてもこの距離は相当遠いものであり、お互いに見えないのです。しかし、三千のこのような宇宙の外側に殻が存在しており、第二層の宇宙を構成しています。このように進み、第二層の宇宙の外にまた三千のこの大きさをしている宇宙が第三層の宇宙を構成しています。この数の概念は非常に大きいのです。一つの米粒で一つの宇宙を表わすと、相当大きくまで拡大されます。三千個の米粒になると、テーブルと同じ大きさになり、ひいてはこれよりも大きくなりますが、三千個のテーブルの大きさになると、この劇場は収容できなくなります。ですから、その倍数は相当大きいのです。つまり、その体積、範囲は非常に大きいということです。

しかし、この宇宙は私が皆さんに説いたとても簡単な概念にすぎません。このような宇宙も一つの粒子と見なされています。実はそれは確かに一つの粒子であり、しかも宇宙の中の非常に小さい粒子の形式です。しかし、これのほか、天体全体の構成において、各粒子の中にそれぞれの天体の異なる存在形式があり、天体の中に更に異なる次元の天が存在しています。各粒子に異なる次元があり、その中にいる生命にとってそれは異なる天であり、異なる次元の天です。しかし、異なる次元の天にまた異なる神の世界が存在しており、その数は数え切れないほど多いのです。前回私がアメリカに来てサンフランシスコで説法をした時皆さんに説いたその概念は既に非常に大きかったのです。私はどのくらいの次元を説いたのでしょうか？ 私は最初八十一層の次元を説いて、その後千以上の次元まで説きましたが、確かに非常に大きい範囲まで説きました。実は皆さんに教えますが、私が皆さんに説いたその範囲は皆さんが既に不思議に思うほど大きいと感じていますが、実はそれも極めて小さいのであって、遠く離れてそれを超えてから振り返って見ると、それも一粒の宇宙の塵芥に過ぎません。この天体はこの程度まで大きいのです。

しかし、皆さんに教えますが、地球を基点にして発展してきた（発展してきたのではないのですが、他にそれを言い表す言葉がないので、人類の言葉で説くしかありません）、つまり地球を基礎としたこのような世界は、このような連帯関係を持つものに対して発展という言葉を使うしかありませんが、このように拡大していくと、発展し拡大してそれほど膨大な天体まで大きくなりますが、それも一つの体系に過ぎません。このような体系も計り知れないほどあり、人類の数字で数えることができません。そして、それらの天体の中に異なる生命がおり、お互いに遠く離れています。皆さん、考えてみてください、つまりこの宇宙は人類の言葉でその大きさを言い表すことができないほど大きいのです。それらの生

命の差異は相当大きいのです。人類は自分達が発展させたこの文明を素晴らしく思っており、マンハッタンにある高層ビルが全世界で最も高く最も多いのだと言っており、現在の科学技術の発展に対して、人類はうぬぼれており、素晴らしいと思っています。振り返ってみると、古代の人は現代人に及んでいないと思っています。古代の人は馬車を御したり、馬車に乗ったりしていましたが、現代の人は車や自動車、飛行機に乗っています。人々は自分達が非常に輝かしい発展を遂げたと思っています。実は皆さんに教えますが、皆さんは異なる天体と異なる世界に由来を持っています。人類社会が発展してきた全ては異なる天体、異なる社会のものが人間の考えに残した痕跡であり、これは情報とも言いますが、それに基づいて常人の中で最も粗い人類空間の物質でまた作り出したのです。つまり、異なる宇宙空間に随分前から既にあったのです。

先ほど私は多くの方がはるか遠い空間からやってきたのだと話しました。それでは、皆さん考えてみてください、お互いの差異と特性が相当大きいのであって、長い歳月の流れの中で、生命は絶えず悪くなった時（天上の言葉で話すと、良いか悪いかということはありません。彼らがいつも使っている話と概念で言うと、つまりその生命は沈んでしまったということです）、下へ沈積し始め、沈積してしまいます。その生命がそれほど純正で軽くて軽やかでなくなった時、沈積してしまいます。実は物質に変異が起き、つまり不純になったからです。沈積し、絶えず下へ沈積していき、今までのこの発展過程はつまりこういう過程でした。しかし、この過程が非常に遅いので、人々は自分に変化があったと思わないのです。神も自分に何の変化もないと思っています。なぜならば、歳月があまりに長いからです。人間の時間では計算することができないほどです。

時間のことに言及しましたが、異なる空間に異なる時間があります。その時間は非常に複雑で、時計の中に大きさが異なる歯車があるのと同じように、ほぼそれと同じです。実はこれより何億倍、何兆倍複雑なのかが知れません。人間の概念でそれを表現することができず、つまりそれぞれの回転回数と時間があり、このような異なる差異を抱えながら、物質は下へ沈積していきます。人間のところまで来ると、人々は皆人間の考えがとても複雑だと思っています。実は皆さんに教えますが、人間の考えは確かにとても複雑です。なぜならば、それは長い歳月を経て人間の所に至ったからです。長い歳月の中でどの次元のものも、皆さんの生命にその一部が残されたのです。人間の脳の70%が使えないと現在科学者に分かっていますが、つまり人間の智慧を縮小したのです。もし人間の智慧を全部開き、神のような大きな智慧を持つようになったら、あなたのそれらの複雑な考え

は人類社会で大変なことを起こし、人類社会にどういふ変化が起きるのか分かりません。ですから、この問題に触れたので、ついでに言っておきますが、現在の人類のこのような発展は良いことではありません。人間の貪欲はきりがないので、高い境地になってもあれこれを欲しがっており、更に上へと発展しようと思っています。このようにするのは実は良いことではありません。なぜでしょうか？人間は人間の状態を超え、人間が知るべき全てを超えたとき、人類にとってそれは極めて危険なことです。人類の智慧が封じられたのも人間に多くのことを知られてはならず、人間にそれほど大きな知恵が備わってはいけないからです。

ここまで話したので、ついでにあることについて話します。皆さん考えてみてください、私たち一人一人真剣に自分の考えに目を向けたら、考えが瞬時に変わってしまい、一秒の間に多くの考えが現れてくることに気づきます。この考えがどこから来たものなのか、あなた自身も分かりません。時に非常に奇怪な考えが現れてきますが、これはあなたの生々世々にあった異なる観念であり、何かの出来事に遭う時に、それが現れてくることがあります。しかし、誰にも私(し)のため、自分の利益を守るために後天的に形成した観念があるため、人間はますます悪くなりました。これが原因で人間は下へ落ちていくしかなく、再び上へ昇ることができなくなりました。覚者、佛陀、神が人を済度しに来たのも、このことを目にしたからです。もちろん、中に多くの複雑な要素があります。神は誰をも済度するというわけではなく、皆自分の人を探して済度しています。ここで私はもう一つの秘密を明かしました。つまり、私だけがこの全ての封鎖を破り、全ての人を済度しています。先生が慈悲であり、私たちが済度していると言っている人がいますが、実は多くのことは皆さんが知ってはならず、皆さんを済度するのがどれほど難しいのか永遠に皆さんに知られてはなりません。考えてみてください、皆さんのそれらの複雑な観念は異なる次元の天、異なる次元の世界と境地のことと関わっています。現在中国にある言葉がありますが、何かのことを解決することを「擺(bai)平(ping)」(訳者注：片付けると言う意味です)と言います。あなたはどのようにこれらのことを「片付ける」のでしょうか？

皆人間を済度すると言っていますが、どのようにこれらの人を上の次元まで済度するのは誰にも分かりません。非常に難しいのです。先ほど私が話しましたが、覚者は皆自分の人を探して済度しており、他の覚者の人と関われないように、できるだけ関わらないようにしています。一旦関わってしまうと、他の人を済度することができなくなるだけではなく、彼自身も危なくなります。なぜならば、この世界はあまりに複雑であり、良し悪しの観念はある一定の次元において皆変

異してしまったからです。覚者に人間のこのような良し悪しの観念はありません。他の覚者のものと関わってしまうと、あなたはその覚者の多くのことに関わってしまい、その世界まで変異が起こる、などなどのことがあります。しかし、あなたにその責任を負うことができるのでしょうか？ できません。無理にやってみれば、悪事を働くことになり、人を済度しても悪事を働くことになり、皆さんが想像しているようなことではありません。このことは非常に難しいのです。弟子や学習者が一人増えると、私のほうはその分難しくなります。しかし、それでも私はやはり皆さんを済度し、済度できる人をできる限り済度し、できるだけ済度しています。皆さんに簡単な例を挙げて説明しますが、私があなただを済度しようとしている時、あなたは何かの宗教を信じているとしましょう。その宗教は昔とても正しかったのですが、今人を済度することはできなくなり、一種の政治的な形式になってしまいました。あなたを済度するために、この宗教は人を済度することができなくなったと私はあなたに教えなければなりません。これで、その宗教に触れたことになるのではありませんか？ このため、この宗教は阻害の作用を働き、破壊し、ひいては各方面において悪事を働きます。これは簡単な例です。

ここまで話しましたが、在席の皆さんが皆私の大法弟子なので、以前の多くの宗教を邪なものだと言ってはいけません。佛教、キリスト教、カトリック教、ユダヤ教も含めて、他の幾つかの宗教が歴史上正教だったと私は認めています。しかし、今日のこの歴史時代に、今日の近代化された人間の観念をもつ社会において、人々は人間の本質と古来の観念で既に宗教を理解することができなくなりました。つまり、あなたの観念が宗教の原義と離れてしまい、宗教を理解することができなくなったので、その宗教に済度されなくなり、その宗教もあなたを構わなくなりました。一方、人々は宗教の中で地位などを強調し、自画自賛し、人々に自分を信じさせ、お金を出させています。このような人は名利を求めており、ひいては政治屋になっています。それでは、皆さん考えてみてください、振り返ってみれば、この宗教はまだ正教なのでしょうか？ 私は佛、道、神が正しくないと断言しているのではなく、私が言っているのはこの宗教です。宗教は人間が認めているもので、人間が造ったものです。神は宗教を認めておらず、人の心しか認めていません。あなたの目的は佛の世界、イエスの世界に行くというところにあります。あなたがやっていることはそのためではありません。宗教全体がこのように行なっていますが、この宗教は正しいと言えるのでしょうか？ 言えないかもしれません。私が皆さんに対して責任を持たなければならず、あなたにこのことを教えたのはあなたが誤った方向に行かないようにしたいからです。人を

済度することのできない宗教であなたが誤った方向に行かないようにしています。

今回、私は皆さんと同じようにこの法会に参加しにきたので、気づいた問題があれば、それについて皆さんに話します。

先ほど学習者の発表を聞いた時、一部の人がいらいらしており、学習者の発表を短くして私に話してもらいたいと思っっているようです。私たちのこの法会は他でもなく、体験交流会なので、交流を妨害してはいけません。説法したのは皆、目的性がある、目的があるから説いたのです。幾つかの問題を皆さんにはつきり説いたら、皆さんの向上に役立つと思ったからです。もちろん、修煉の過程で存在している多くの問題についても話さなければなりません。私は再三言っていますが、全世界のどの地区の修煉も、中国のあの形式でやらなければなりません。なぜでしょうか？ ご存知のように、中国の社会は人を厳しく管理している社会だと言ってもよいのです。私たちがこの厳しい社会で順調に大法を伝えることができれば、如何なる将来の社会においてもこの法は損失を蒙ることなく伝わっていくことができるはずです。つまり、法を伝えるこの数年の間、この過程の中で行なうべきことを私は中国で学習者に全部行わせたのです。問題が現れたら、私はそれを正し、順調かつ健全に発展させてきました。ですから、他の国、他の地区もこのように行なえば、この法の発展に紆余曲折が少なくなり、学習者が受ける損失が少なくなるようにすることができます。他でもなくこの目的です。

修煉はとても厳粛なことです。人類社会は今日まで発展しましたが、皆さんに教えますが、出来事一つ一つも偶然なことではありませんでした。私の目から見た人類社会の発展と皆さんが見ている人類社会の発展は全く異なっています。人間は皆自分の民族、自分の地区、ひいては個人の利益のために物事を考えています。このような基礎に立って考えていますが、それは皆人間の考えです。私はこのように物事を見ていません。私は歴史を分析しており、人類の発展の全過程を見ていますが、皆さんのように認識しているではありません。人間が物事を見ているとき、恐らく逆になっているかもしれません。なぜならば、人間が物事を見る時の出発点は人間の生活の中での幸せを求めるところにあり、神は人間がこの世で早く業力を返してから自分の元のところに戻って幸せを味わってもらおうとしているからです。これは本質的な違いです。しかし、人間はどうしてもここで気持ちよく暮らしたいと思っっています。もちろん法を得ていない人はこのように考えていますが、法を得たら、觀念に変化が生じるので、全く違う考えになります。ですから、私はいつも言っっていますが、人間が少しの苦を舐めたり、魔難

などを経験したりすることは悪いことではなく、良いことなのです。なぜでしょうか？ 人間は自分を守ろうとしているとき、皆「私(し)」のためだからです。

「私」のための願望から、苦を舐めたくなく、幸せでいたいと思っています。しかし、皆さん考えてみてください、人間は皆幸せになりたいと思っており、現在の多くの白人社会はその生活レベルが確かに中国やアジア地区の国より高いので、とても幸せだと思っていますが、実は彼らには他の苦しみがあります。常人は生老病死の苦痛から離れることができず、しかも各種の欲望が満たされていない時、情緒に動かされ、その時の苦しみは更に凌ぎ難いものです。また、彼らは人生の行方が分からず、何のために生きているのかを知らず、孤独で寂しく生きています。しのぎ難い寂しさは人間にとって最も危ういことであり、修煉の中の最大の難でもあります。ですから、人間は苦痛の中で生きており、各種の異なる環境の中で人々を修煉させ、向上させることができるので、苦を舐めたり幾らかの辛いことを経験したりすることは悪いことではありません。なぜならば、神の考えで言えば、辛いことに遭った後、あなたの業力が減されてしまいます。どんなに大きな困難に遭っても、正しく対処すべきであり、穏やかな気持ちでそれに対処すべきです。私が話したように、他の人とぶつかったら、内に向けて探し、自分の原因を探すべきであり、外に向けて探さないでください。このようにしていれば、あなたの心性は実は向上しているのです。

以前私はあることを話したことがあります。これは修煉界の話ですが、つまり道を修めていませんが既に道の中にいるという人のことです。これはどういう意味なのでしょう？ このような人は常人社会での生活が清貧であるにも関わらず、いつも厄介なことに遭っています。しかし、厄介なことに遭っている時、人に善を持って接し、自分の良くないところを探しており、このような人が本当の意味の最も良い人です。もし、長期的にこのように続け、生命の最後まで続けることができれば、この人が得道するのです。なぜ得道することができるのでしょうか？ 例えば、皆さんご存知のように、西洋の宗教は私が今日皆さんに伝えているようなものではなく、東洋のような修煉形式でもありません。西洋の宗教は信じることを重んじています。主を信じ、イエス（キリスト）を信じ、神の言う通りに行動することができれば、天国に行くことができます。こういう道理です。

もちろん、西洋の宗教も実は修煉なのです。なぜでしょうか？ 祈祷をする時に、自分のどこが間違ったのかを話し、そして次回正しく行い、同じ過ちを繰り返さないようにしています。このように徐々に正しく行うようになり、ますます良くなり、更に良くなり、以前犯した過ちを繰り返さないようにしています。こ

これでこの人はますます正しく行なうようになったのではありませんか？ これは心性を修める中で向上しているのではありませんか？ 修煉は他でもなく人の心を修煉することです。これでこの人の心は向上しているのではありませんか？ このような向上はまさに修煉ではありませんか？ しかし、西洋の修煉にあるものが欠けています。私たちの修煉は性と命が同時に向上しているのに対し、西洋の修煉は性だけを修めています。ですから、西洋の修煉をしている人が命の最期を迎えた時、天に上る基準に達したかどうかをイエスキリストまたは彼らの天主エホバは量るのです。基準に達していれば、神の体を与え、迎えにきて、天まで連れていきます。それに対し、私たち今日の修煉は古来の東洋の修煉の特徴と似ています。心性が向上した時、あなた自身の体も変化しており、エネルギー物質によって体が変わっています。これは私たちの修煉の特徴です。

昔、佛体を修煉すると言っており、つまり修煉している時、あなたの境地が絶えず高まっている時、あなたの丹田のところに元嬰が現れてきます。元嬰が絶えず大きくなっていき、元嬰の姿かたちが見えるようになった時、それは小さい佛または道の子どもであり、ますます大きくなっていきます。最後あなたの体と同じくらいの大きさになった時、あなたの元々の肉体を取って代わります。佛教は涅槃を重んじており、体を持っていきません。肉体が脱落した時、見える人は体から佛が現れ、出ていったのが見えます。東洋人と西洋人の考えが違いますが、これは現在の東洋文化と西洋文化の違いによるものです。はるか昔において、西洋に道を修める人もおり、体を修める人もいましたが、現在の西洋ではこのような修煉は伝承が途絶えてしまいました。

私はこの数年、いろいろなところに行きました。オーストラリアの山の中にも白人の神を見ました。これは地上の神の修煉の類に属しています。また、ヨーロッパのアルプス山脈とアメリカのロッキー山脈で見たこともあります。私が言ったこのことを聞いていかなる歓喜心をも起こさないでください。あなたがそこに行っても彼らを見つけることはできません。言い換えれば、彼らはあなたに会いにくる勇気もありません。なぜでしょうか？ 皆さんが修めているのは大法であり、大法はこの上なく正しいのであり、この上なく正しいからです。皆さんに教えますが、皆さん自身が大法のこの上ない正しさを感じることはできないのは、あなたの体の表面の修煉が比較的ゆっくりと進んでいるからです。しかし、あなたの生命のミクロ的な物質は修煉の時非常に速く転化しています。なぜこれほど速く転化するのでしょうか？ あなたの先天の源にある体は元々天上にあるからです。しかし、この天の概念は皆さんが想像しているような距離の概念ではありません。

ません。皆さん考えてみてください、もし火星から地球を見れば、地球は天上にあるのではありませんか？ その通りです。あなたが指差しているこの一寸にもならない空間も天ではありませんか？ それも天なのです。ですから皆さんが想像しているような距離の概念の天ではありません。例えばマクロ物質からミクロ物質まで、人体の細胞のように、細胞は分子からなっており、そして分子、原子、原子核、中子、最後はクォークになっても中性微粒子になっても、それはやはり非常に浅いレベルであり、更にミクロ的なところがあります。人間の距離の概念で見れば、これらの粒子はあなたの体にあり、または体以外の物体にあり、たいして離れておらず、ほぼ同じところにあるようです。しかし、天体の範囲は非常に大きいのであって、物質がミクロであればあるほど、物質の粒子がミクロであればあるほどその全体の面積が大きくなります。一つの粒子が非常に小さいのですが、無数の粒子で構成された一つの全体であれば、非常に大きくなり、しかも人間の空間を超えています。人間の空間が非常に大きく見えていますが、実はちっとも大きくはありません。

学習者が修煉の中でどんなトラブルに遭っても、自分自身を探し、自分から原因を探ることができれば、どんな問題でも解決されます。問題に遭ったら、必ず内に向けて探してください。先ほど既に話しましたが、他の人があなたに悪い事をしたのではなく、あなたに良くないところがあるからです。例えば、一つの天体は全体的に非常に順調ですが、あなたに良くないところがあり、あなたのところにこじれた問題があるから、あなたは他の人とぶつかったのです。自分の原因を探し、問題を改めれば、こじれが消え、全てが順調になり、周りの人もあなたと和むようになります。簡単な例を通じてこの道理を説明しました。

今日は法会のため、発表する学習者がいるので、明日また続けて話しましょう。明日は皆さんに続けて法を説いてから、皆さんの質問にお答えします。

私たちの修煉が容易いものではないと私は皆さんに話しました。皆さんは多くの苦を舐めましたが、正教または正法修煉だけが苦を舐めることがあります。もし順調に修煉し、何の魔難もなければ、これは修煉とは言えず、人々を圓滿成就させることもできません。これは絶対的な真理です。

修煉ということに言及しましたので、ついでに今社会で出回っている様々な宗教について話します。しかし、私が明言しておきたいのですが、私たち法輪大法は宗教ではなく、私は決して宗教をやりません。私たち法輪大法は決して宗教で

はありません。皆さんに教えますが、法が社会で伝わっているため、それと相応して、この宇宙のある次元に相生相克の理があります。つまり、私が正法を伝えている時、それと同時に、邪法も現れてきます。これは相生相克の理によってもたらされたことであり、人間がどの門に入るのか、何を悟るのかを見ています。人間が自らここまで落ちたから、人間にこの迷いの障碍を与えました。この迷いの状態の中で、あなたはまだ正法を認識することができるかどうか、何を求めているのかを見ており、これは非常に大事なことです。実は皆さんが法を得たのは容易いことではありません。各方面においてどういう考えで、意識的にまたは無意識的にどれほどの困難を排除したか知れません。それではじめて、法を得ることができました。

一部の邪教も伝わっており、全てのこれらの邪教が言っているのは世界の終末などのことです。もちろん、劫難が存在していると私は言ったことがあり、佛教もこのように言っています。キリスト教、カトリック教、道家もこのような考えを持っており、これは宇宙の発展の規律です。しかし、決して邪悪宗教が言っているようなことではなく、しかもある一定の時期に確かにこのようなことが存在していますが、解決できないことではないと私は見えています。私はここで皆さんに正式に言っても良いのですが、つまり 1999 年に起きるはずの地球の災難や宇宙の災難と滅亡などは全く存在しなくなりました。なぜ難が存在するのでしょうか？ 皆さんにこの道理について話します。人類の道徳が退廃し、物質まで腐敗し、つまり既に不純になりました。人類の文化が今日本当にでたらめで、各種の文化が混雑し、人種もますます混雑しており、それによって人類を非常に危険な境地まで落としました。これは間違いのないことです。しかし、私は既に話しましたが、人間がだめになったから難が現れたのです。

なぜ災難が存在しなくなったのでしょうか？ 中国で今一億の人々が私たちの大法を学んでおり、全世界の各地にも多くの弟子がこの大法を学んでいるからです。既に相当多い人数になっています。もしこれらの人が皆善に向っており、修煉し、良い人として振る舞い、これほど多くの良い人々がいれば、宇宙または地球が壊滅してしまったら、これらの良い人をどうするのでしょうか？ こういう道理ではありませんか？ 悪くなったから壊滅してしまいますが、これほど多くの良い人がいれば、壊滅して良いのでしょうか？ つまり、あの危険はもうありません。（拍手）しかし、皆さんに言っておきますが、皆さんがここに座っているのは皆大法を学びに来ているので、私がこの問題に既に言及した以上、皆さんに更に詳しく話して、それらの邪悪なものとの混乱している考えを消滅してあげ

たいと思います。

ご存知のように、私は法を伝えており、人々を済度しています。在席の皆さんは皆このことを信じており、なぜならば、皆さんは自分の身をもって受益したからです。皆さんは確かに法から、道理からこのことが分かったのです。しかし、皆さんに教えますが、私はただ人を済度しに来ただけではありません。しかし、私が行なっているこのことの中に人を済度するということが含まれています。次元の高い話をしてはいますが、在席の中に新しく入ってきた人がいるので、それを受け入れられないかもしれません。以前私はこのようなことを話したことがありますが、つまり、私は宇宙全体が宇宙の特性（宇宙の特性について私は『轉法輪』の中で既にはっきりと説明しました。「真・善・忍」が宇宙の特性です）からはずれ、不純になった時、宇宙の中の衆生と全ての物質、生命が不純になった時、宇宙の特性からずれてしまい、つまり法からずれました。宇宙の法は異なる次元の生命に生活環境を切り開き、中の生命と物質は長い歳月の中で不純になった時、その次元の法の要求と一致しなくなりました。これはなぜ生命が下へ落ちていくことがあるかの理由です。その次元の法の要求と一致しなくなったから、下へ落ちていき、悪くなればなるほど下のほうへ落ちていき、人間のところまで落ちてくるのです。ここはまだ最後ではありません。

それでは、もし物質に全体的に、広範にわたってこの問題が現れたら、非常に危険なことになり、しかも気づかれにくいのです。私がこの法を伝えなければ、在席の皆さんがこの法を学びに来なければ、人類社会が既にここまで墮落したのを誰にも分かりません。皆さんはこの法を学んでこれが分かったから、人類社会を振り返ってみると、人間が既にこの程度まで悪くなったと分かったのです。ですから、今日私はこの法を皆さんに説きましたが、今までの神さえこの法を知らなかったのです。宇宙に法があるのを衆生に知られてはいけないからです。今までの神は宇宙に異なる次元と状態の要求があると知っていただけで、具体的にそれがどういうものなのかを全く知りませんでした。それで、長い宇宙の過程の中でみな徐々に法の要求からずれてしまい、この過程に神たちも気づきませんでした。ですから、私はこれほど大きな事を行っています。私がなぜこのことをしたのか、中に理由がありますが、今それを明かすことができません。

私が言っているのは、私が行なっているこのことは人を済度するだけでなく、法からずれた全ての生命、物質を全部正すということです。（拍手） このようにしなければ、天上のところまで危なくなります。あなたがいくら良く修煉した

としても、あなたにとって安全なところはもうないため、このことをしなければなりません。このことがどれほど難しいか皆さんには分かりません。しかし、私がこのように話しても、このことをやり遂げることができる私のもう一つ側面を皆さんには見えません。私はただ一人の人間の姿かたちであり、一人の人間の形を備えている李洪志がここに座って皆さんに話しているのです。皆さんは私を皆さんと同じような人間と見なしてよいのです。私が言っているのは人を驚かす話ではなく、私は法を説いているだけで、この宇宙の理を皆さんに教えています。信じるかどうか、修めることができるかどうか、それは皆さん自身のことです。

ここまで話したので、ついでに皆さんに教えますが、この宇宙はほぼ正され終わりました。人類、つまりこの最も表面にある物質だけがまだ終わっておらず、しかしそれも終わりに近づいています。私の功はこの次元の物質が分裂、爆裂しないように、または他のことが起こらないように完全に制御することができます、完全に制御することができます。（拍手） ですから、歴史上予言された現象は全く存在しなくなりました。もちろん、私は次のことも話したことがあります。つまり、私がこのことをしていますが、もし何かを残そうとするなら、私はそれを良いものにしなければなりません。あたかも一つの腐ったリンゴのように、既に腐ったから、それでもこのリンゴを残すのであれば、悪事をしていると同じです。境地が非常に高い生命が人間をごみのように見ており、彼らは人間を自分と同類と見なしていません。人間を残したいと思っていますが、なぜこのようにしなければならぬのでしょうか？ 人間を残したければ、人間を良くしなければなりません。人間だけではなく、地球上の物質、植物、動物など多くのことも含まれています。

私が今日行なっているこのことは、全地球にいる人間や物質を全部良くするということです。私にこのことができます。他の生物、植物と動物が法を認識する必要がないので、私は直接それらを良くすることができます、直接それらを作り直したり同化させたりすることができます。しかし、人間に限って言えば、地球上の全ての人間を全部良くすることはもう不可能です。なぜ不可能なのでしょう？ 既に法を知る資格はないほど悪くなった人がいるからです。法を知っていても学ぶ資格はもうありません。つまり、既に法を学ぶ資格はないということです。このような人はかなりおり、相当多いのです。どのようにしたら良いのでしょうか？ 人類または地球に劫難が起こるなどのことを私は言ったことはありません。しかし、皆さんに教えますが、今社会に多くの治療できない病気があり、各種の自然災害がありますが、これは偶然なことではありません。全ての物体が皆生き物で

あると現在の科学は認識することができませんが、全ての物体に生命存在の一面があるため、人類に広範にわたる淘汰が現れます。これは間違いのないことです。良くないものは言うまでもなく、淘汰されます。人間の体に新陳代謝があると同じように、良くないものは淘汰されます。こういうことがあります。

実は、このようなことは歴代に存在しており、数千年来にずっとこのように起きています。人間は古いものを捨てて新しいものを吸収し、新陳代謝をしていますが、この地球もこの人類社会も同じように、生まれては、また亡くなります。しかし、私が言っていることはもっと深刻な問題であり、広範にわたってこのようなことが起きます。業力が非常に重い人がこのまま生き続けることができなくなります。地球を残したいのですが、どのように残すのでしょうか？ 皆さんの修煉と同じように、皆さんの体を演化していると同時に、新しい地球をも造っています。新しい地球が出来上がったら、私たちは何かの乗り物に乗って新しい地球に行くのではないかと考えている人がいますが、これは人間の考えであり、人間の概念です。

先ほど話しましたが、宇宙の全ての物質は皆ミクロ的な物質、ミクロ的な粒子で絶えず大きい粒子を構成し、今日私たち人間に見える細胞、つまり分子という粒子まで構成しています。言い換えれば、分子という粒子以下の全ての物質が既に更新され、表面のこの次元の分子、ひいてはもっと表面にあるものだけがまだ更新されていません。つまり、分子が構成した表面の下にあるミクロ的な粒子で構成された部分において、地球は既に新しい地球になりました。この次元の表面空間にある物質は、良い人のために残されているのであって、良い人が新しい地球に入る時、知らないうちにある日突然世界が変わったと感じ、またはある日の朝起きたら、世界の全てが新しくなったと感ずるので。これ以外、人間は他の如何なる感覚もないかもしれません。感覚から世界が変わったと感ずるだけで、如何なる震動もありません。

なぜでしょうか？ 物質のその表面の下の如何なる物質もミクロ的な物質によって構成されたのであって、ミクロ的な物質が解体した時、表面の物質も解体してしまっ見えなくなります。その解体は、煙が消え雲が散ってしまうことと同じように、知らないうちに行なわれました。その時、人間はまだもとの所にいますが、既に新しい地球にいます。私がこのことを話した目的は、一つはいわゆる劫難はないということ、もう一つは良い人にならないと危ないということをお皆さんに教えるためです。これは今日の人類に直接関わっていることであり、私たち

の修煉の問題に関わっていることでもあります。

ついでに言うておきますが、だれも私が話したことを新奇な話にしないでください。また断片から意味を解釈したり、歡喜心または各種の執着心を抱いて勝手に広めたりもしないでください。弟子として、皆さんはどのように行なうべきかを知っていますが、口の軽い人がいます。続けて皆さんに話しますが、人間はなぜ人間のままなののでしょうか？ なぜ人間は愚かな者と言われているのでしょうか？ 一つは智慧が小さいからです。もう一つは人間が何をしても手足と体力を使わなければならない、苦勞しなければならないからです。それに対し、神は何かを行なう時、手足を使わず、考えるだけでできてしまいます。神は思いを巡らせればそれをやり遂げることができます。神の功は極めてミクロ的な粒子から極めてマクロ的な粒子まで備わっており、それぞれの粒子は皆神本人の姿かたちをしています。神の功に様々な大きさをしている粒子があるので、何かを形成しようと思ったら、その物体の最もミクロ的なところから各次元及び表面まで同時にその物体を作り上げるのです。神が思いを巡らせている時、功は物体を無から有にし、非常に速い時間場でそれを作り上げています。これはなぜ佛と神にこれほどの能力があるのかということの理由です。

それに対し、人間は最も愚かな者であり、何かをしようとする時、体力を使って労働しなければなりません。ビルを建てるには多くの人が上に行ったり下に行ったりしなければなりません。あたかも数百個の分子が忙しく動いているかのようで、これは最も愚かな方法です。佛は何かをしようとする時、人間のように人間のこのところの時間を使って行なっているではありません。佛は速度の最も速い空間の時間で行なっています。ですから、この空間では非常に短い一瞬間にできてしまいますが、人類の時間場では一念でできたと感じられます。修煉して到達する次元が高ければ高いほど、能力が強く、制御できる時空も多くなります。

それでは皆さんの質問にお答えします。

弟子：四歳の息子が師父の『轉法輪』と經文を読んだり暗記したりするのがとても好きですが、動作が好きではありません。これは修煉していると言えるでしょうか？

師：子どもは大人と違います。子どもは遊ぶのが好きで、これは子どもの天性であり、執着とは言えず、子どもはこのように生活するものです。子どもに法を学ばせ、勉強することができれば、これに越したことはありません。私は子どもを見るのが大好きで、子どもの考え、心と体が本当に純粹で清らかだからです。子どもが修煉すると、非常に速く進みます。子どもには人間が後天的に形成した如何なる執着もありません。法を聞くときに、遊びながら聞いている子どもがおり、聞いていないように見えますが、実は皆心に入りました。何を聞いても知っているのです。子どもがもし煉功することができれば、本当に良いことです。ただし、子どもがあまりに小さいと煉功することができません。なぜならば、まだ子どもだから、遊びたがっています。子どもに対しては別扱いをすべきです。

弟子：白人に弘法するとき、イエスに対する信仰を放棄することのできない人がいますが、これは彼らが大法を修煉することにどのような影響があるのでしょうか。

師：私は不二法門を説いたことがあります。専一に大法を修煉することができなければ、大法の中で圓滿成就することができません。先ほど既に話しましたが、全宇宙または大きい範囲が法からずれてしまったのであって、この中に人間が含まれていないのでしょうか？ 宗教は人間がやったことではありませんか？ もし宇宙の衆生が法からずれてしまったら、法からずれてしまった生命の中に人間がずっと信仰している天国世界も含まれているのではありませんか？ もし、佛、道、神の世界もその中に含まれていれば、皆さん考えてみてください、これはどういう問題なのでしょうか？ 当時、法を伝えていたイエスにしても、釈迦牟尼、老子、エホバにしても、彼らが法を伝えていたとき、そのときの宇宙の衆生と生命は随分前から既に宇宙の特性からずれてしまったのです。

最も分かりやすい言葉で例をあげて説明しましょう。佛の世界、神の世界は金によって構成されています。しかし、長い年月の中で、それらが不純になったとき、それは純金、百パーセントの金ではなくなりましたが、まだ金によって構成されています。しかし、それは 18K の金、16K の金であり、今日法が正されたら、純金、百パーセントの金、24K の金になります。しかし、彼らが残した宗教または修煉方法は、皆 18K 金と 16K 金の時に残されたのであって、新しい神佛の世界の基準に達することができません。彼は再び 24K の純金の世界に戻るのでしょうか？ 一つの分子でも戻ったら、その世界が不純になるため、あなたがその世界を汚染することを許してはいけません。この道理ではありませんか？ ですから、ついでに皆さんに教えますが、世界の今の全ての宗教は全ての

正教も含めて、それが佛によって伝えられたので、邪教だとは言えませんが、再び人間を圓滿成就させることができません。

どの宗教の中で修煉がいくら良くできていても、あなたはきっと当時佛陀またはイエスが伝えたものにしがたって修煉しており、いくら高く修煉しても、当時釈迦とイエスが伝えた最高の理に到達するに過ぎません。しかし、それは16K、18Kの金であり、純金の世界に戻ることができるのでしょうか？ 釈迦佛とイエスが良くないと言っているのではなく、私が言っているのは、全宇宙の衆生が法からずれてしまい、彼らがその中の一人であるということです。つまりこういう道理です。具体的なことについて触れませんが、とても大きい問題だからです。しかし、人間はどうしても迷って悟らず、今見えたものしか信じていません。人間にもう一つ非常に頑固な癖があり、つまり理性から問題を見るのではなく、感情から物事を見ているということです。古くから伝わってきたものを捨てることができず、放棄することができません。これは彼らが感情からそれを放下することができないのであって、理性をもっていったいどれが正しいのかを分析しているわけではありません。

弟子：白人に対して弘法する時、何に気をつけるべきなのでしょう？

師：白人の思考方式は私たち黄色人種の思考方式とは違い、彼らの特徴を配慮すべきです。複雑な中国の思考方式と言葉で、白人を困らせないでください。これが難しいと彼がすぐ思ってしまうと、良い効果を得られないと思います。ですから、白人に法を得てもらうには、まず『中国法輪功』（改定版）を読ませ、読み終わったら、『轉法輪』を読ませれば良いと私は思っています。これで彼は学びやすくなります。すぐ『轉法輪』を読ませたら、多くの人が理解できないため、止まってしまいがちです。もちろん、中に特別良い人もおり、読めばすぐ理解することができます。もう一つのことですが、白人は本を読み、はじめて本と接触したとき、必ず一回読み終えるようにしてください。途中で止めたら、また時間を作って読むのは難しくなります。本を読み、勉強するようにと勧めても、彼はきっと時間がないと言うのです。皆そうです。実はそれは思想業力が彼にこれ以上読ませないように阻止しており、彼の思想業力が恐れています。この本を読むと、彼の思想業力を消滅することができるからです。

弟子：アメリカのラジオ局、テレビ局、新聞に大法を宣伝したことがありますが、何の反応もなかったのです、引き続き努力すべきなのでしょう？

師：ここで皆さんにもう一つの道理を教えなければなりません。皆さんは私のいつものやり方を知っているかもしれませんが、私は如何なる宗教形式をも取らず、常人の名簿で皆さんの名前を一つ一つ記録することもしていません。私たちは如何なる形式もなく、事務所も何かの有形のものもありません。如何なる有形のものに対しても人々は執着を生じるので、皆修煉ではありません。金銭、財物、名利を放棄するだけのことではありません。ですから、皆さんに教えますが、私たちの法は人類の社会に伝わってきて、この法はとてつもなく大きいので、相対的に言えば、これほど大きい法を伝えるためにそれに対する要求も厳しくなります。私がなぜこの無形の道を歩んだのかを皆さんには分からないのですが、他でもなく、この法がこれほど大きいからです。私たちが大道無形の道を歩んではじめて、法のこの世での伝わり方と相応しくなります。以前多くの人が法を伝えに来たのですが、佛であれ、西洋の神、イエスキリスト、ひいてはエホバであれ、彼らは皆人を集める方式を取りました。人間が悪いことを学び、落ちてしまうことを恐れ、人間を集めて一緒に修煉させていました。釈迦牟尼は弟子の頭を丸刈りにし、袈裟を着せましたが、イエスの弟子は修道院に入っていました。皆さんに教えますが、彼らの伝えた法は小さいので、このようにしないと、弟子を済度することができなくなるからです。それに対し、今日私たちはこれほど膨大な法を有しており、もちろんオープンにすることができます。あなたが何をやっても良いのですが、人間の心のみを見ています。私が大きな扉を開いたと私は言っており、実は皆さんは知らないのですが、どこに門があるのでしょうか？ 全てが開かれており、人間の心のみを見ています。

もし皆さんが異なる空間、世界から法を得に来たのであれば、あなたの人間の一面の考えはそれを知らないのです。皆さんが自分の世界に戻りたければ、皆さん考えてみてください、今までの方法と宗教であなたは戻ることはできるのでしょうか？ 絶対戻ることができません。しかし、私たち今日のこの法は全ての衆生をそれぞれ元の位置に戻すことができ、なぜならば、これは宇宙大法だからです。それでは、一つの要求があります。つまり、この法がこの世で伝わるときに非常に正しく歩まなければならないということです。ですから、皆さんに教えますが、私たちは最も正しく歩んでおり、人間に名、利、情を放棄させました。私を始め、皆さんはこれらのものを放棄しました。これだけではなく、あなたが常人社会で修煉することを要求しているため、常人社会の形式と一致し、常人社会の形式を破壊することもしてはいけません。

更に、私たちは法を伝える中で、如何なる広告、テレビ、新聞の宣伝もなく、

私たちを大いに持ち上げるようなこともしていません。以前説法のと き掲載された記事を読んでみたら、「李洪志が来た」ということだけを言っています。極めて少数の学習者が大法を宣伝したことがあります。それはその人個人の行為であり、彼個人が大法のために良いことをしようとしています。ですから、私たちの大法はいかなる宣伝の方法で大法を宣伝しても、皆自らに泥をつけることとなります。そのため、私たちはこのような道をとりませんでした。学習者でありながら、新聞社の記者または編集者であり、法を宣伝したいと思っていれば、それはその学習者個人の行為です。私たちの大法はこのように要求したことはありません。個人による行為であり、その人がやりたいと思って、これはその人の気持ちです。個人が良いことをしたいのであって、法全体とは関係ありません。

なぜこれほど多くの方が大法を学んでいるのでしょうか？ ご存知のように、私たちの大法は素晴らしいのです。宇宙の大法だから、良くないと言う人がいるのでしょうか？！ いくら悪い人であっても口では反対していますが、心の中では敬服しています。なぜ口で反対しているのでしょうか？ もしすべてこのようになったら、彼が本当に淘汰されてしまうと彼に分かっているからです。ですから、皆さんがどのように行うかのことに至っては、法を弘めることは皆さん個人の行為であり、大法自体に何の形式もありません。私たちは本当の意味の大道無形という道を歩みました。

皆さんが家に戻ると、社会の普通の一員になり、私たちは皆さんの心のみを見ており、如何なる戒律も形式上の命令的な規定もありません。今まで誰もがこの道を歩む勇氣はありませんでした。皆家に帰り、如何なる宗教的な形式も取らず、有為のことをしながら家に帰って修煉するようにしたら、どの宗教も崩壊してしまうので、決してこのようにすることができませんでした。なぜならば、法はそれほど大きくないからです。私たちはこのようにすることができます。皆さんが家に帰って自分の仕事をし、生活に何の変化もありませんが、心に法があり、自ら修めており、真に向上しています。以前話したことがあります。佛と神は常人の宗教を見ておらず、宗教も認めていません。彼らは人間の心だけを見ています。宗教が破壊されたとき、佛はなぜ人間を止めなかったのでしょうか？ 教会堂が壊されたとき、キリストはなぜそれを止めなかったのでしょうか？ それは人間が行ったことであり、人間が良いことをしようとし、人々にキリスト、佛を信じて欲しいと思い、お寺や教会堂を作りました。これは人間が取った形式です。佛、神が人間の心のみを見ているため、私たちは如何なる形式も取っていません。

以前話したことがあります。政治に参加することはなおさらしてはいけません。絶対政治に参加してはいけません。人類社会の発展、この国が良いか、あの国が良くないのか、人間と人間との関係は、社会の発展によって決められており、常人が人為的に阻止することのできないことです。人間はそこで苦心惨憺して自分のために奮闘したり、研鑽を重ねるしかありません。しかし、天象がそこまで変化しなければ、常人の誰もがそれを変えることはできません。人類の発展は人類のために定めた道であり、どのように発展し前進するのか、どんな動きにも少しのずれもありません。ですから、修煉者は常人を超えているのです。どうして常人のことに構うのでしょうか？ 宗教の政治屋が独立や領土、地位のために政治に参加しており、ひいては殺人、テロ活動をやっています。これが邪悪であり、このような宗教家は私に言わせると、修煉の人ではありません。修煉の人は常人の政治に参加せず、このような人は政治屋でしかあり得ません。佛、神が欲しいのは天国世界であり、なぜ人間の世界の何かのために争うのでしょうか？ このような人が修煉者なののでしょうか？ 基準に達しているのでしょうか？ 人間はこのような人を神として崇拜していますが、実は中に悪い人さえおり、地獄に落ちるのです。

弟子：千万年来、人類社会の物質環境も思想業力を作る要素の一つなののでしょうか？

師：もちろんそうです。この物質環境がなければ、業を造ることができません。現在の人類のこの環境がなければ、良いことも悪いこともすることができません。この環境がなければ、人間になることもできません。これは間違いのないことです。しかし、人類社会はその特殊性があるので、これからも存在しつづけなければなりません。

弟子：アメリカ社会の魔性はアメリカ人が法を得ることの主な障碍なののでしょうか？

師：このように言うてはいけません。私はアメリカの田舎と小さい町に行ったとき、多くの善良な人々、善良な白人と会いました。全世界の全ての大都市はとも乱れており、玉石混交し、良し悪しが区別されていません。多くの場合、特別に良い人もいれば特別に悪い人もいます。なぜならば、中に相生相克の理があるので、一概には言えません。しかし、アメリカはアメリカの特徴があり、全世界に人間を変異させる現代的な考えをもたらしたことに大きな作用を働きました。中に芸術、文化、観念など各領域、各方面が含まれています。この現代的なものは変異した文化であり、人間の文化ではありません。これは間違いのないことで

す。五十年代以前のアメリカ文化は人間の文化だと思います。そのときの人間はやさしかったのです。白人の男性は紳士の行いを重んじ、とても上品でした。女性も女性らしかったのです。私はとても良いと思っています。現在男性も女性も同じ個性を持っているようです。もちろん、私はアメリカが良くないと言っているのではありません。

先ほど話しましたが、私は人類の変化だけを言っています。今日の東洋人も恐ろしいのであって、悪い考えを持っており、お互いに傷つけ合っています。二人が会うと、口では何も言っていないが、既にお互いに傷つけ合っています。人間にこのことがわかっておらず、このことを思いもつきませんでした。これは文化の歴史があまりに悠久であるため、生々世々それぞれお互いに怨みがあるかもしれない。あまりに長い間の恩と怨みがあり、会うと皆清算したいと思っているので、お互いに傷つけ合っています。アメリカにいる中国人が団結していないと皆さんが言っているのではありませんか？ 皆さんは表面だけを見ていますが、私は事の本当の原因を見ています。これが原因です。

弟子：魔性に妨害され、体の周りまたは体内でむやみに動いているものがあります。周りの人も顔が黒になったり、黄色、緑、真っ青な顔になったりして、魔のようになっています。

師：皆さんに教えますが、自分が大法を修煉しており、大法弟子だといっている人がいますが、あなたが本当に大法弟子かどうかは私が見なければならず、あなたが口で言えばよいということではありません。私の弟子なら必ず真に修煉しなければならず、トラブルに遭ったら自分の心を探し、自分の心に問題があったからそうなったのではないかと考えなければなりません。本を一回読んで、自分が大法を修煉していると言っている人がいます。このことに遭い、あのことに遭い、頭で常人のことばかり考えており、問題に遭ったら相手と争い、トラブルに遭ったら相手のせいにし、自分の問題を探そうとしません。あなたは自分が私の弟子と言っていますが、私はそれを認めておらず、まったく違うことです。もちろん、私はこの質問を出した人について言っているのではありません。

つまり、自分の心から問題を探すことができれば、どんな問題も解決されます。以前自分で多くのでたらめなことを習った人は体の周りが乱れており、情報が乱れ、いつも恐ろしい光景を見ており、または体に恐ろしい反応が出ています。このために大法を学びに来ました。大法の威力が非常に大きいと分かっているからです。しかし、皆さんに教えますが、これは有為であり求めがあつて法を得に来

ているので、これではいけません。法を得ることができません。しかし、最初法を認識していないため、この心があるということに私たちは反対していません。しかし、いったん学んだら、これらの心を放棄しなければなりません。このようにすることができれば、どんな現象も解決されます。私は道理を皆さんにはつきり説いたと思います。この問題は『轉法輪』の中で非常にはつきりと説いたと思います。必ず本を多く読み、法を多く読んでください。本を読めばこの問題は解決されます。

弟子：自分は善良だと思っていますが、なぜ師父が言っているような慈悲が出てこないのでしょうか？

師：とても良い質問を出しています。実はあなたが書いたこの質問自体は執着の心によるものです。質問を出すことが執着心だと言っているわけではありません。あなたはあなたの慈悲に執着しています。これはあなたが欲しければ出てくるものではありません。あなたの次元の向上につれ、皆さんの情が消された後、その部分は空になるのではなく、慈悲によって代替されます。徐々に徐々に増えていきます。しかし、ここに座っている私の弟子の中に確かに非常に高い次元まで修煉した人がいますが、なぜそれほど多くの慈悲心がないのでしょうか？ 実は神の慈悲と皆さんが今人間の考えで想像している慈悲とはまったく別のことです。以前このことについて幾度となく皆さんに話したことがあります。あなたが常人の中で生きることができるよう、あなたの表面が余りに特殊になってはならず、本当にそれほど大きな慈悲を表したら、常人の中で存在できなくなります。ですから、あなたの慈悲、修煉によって出来上がった全ては皆あなたの生命の最もミクロ的なところで急速に変化しており、表面と隔離されています。

人間の生命の場合、ミクロ的な粒子が絶えず最大の粒子の表面の分子まで構成し、分子が細胞を構成しているのです。あなたが絶えず修煉することによって、あなたの体の中の分子（私はこのように表現するしかなく、人間の言葉に限りがあるからです）、生命のミクロ的にある粒子まで、全て激しく変化しており、法の基準に到達しつづけています。基準に達した部分は隔離され、出来上がっては隔離され、慈悲まで隔離されました。倉庫のように、あなたのためにそれを貯蔵し、あなたの修煉によってできたすべてを貯蔵しています。もしあなたの体の表面の変化が速すぎれば、あなたはかえって修煉できなくなります。あなたは何を見ても泣きたくなります。どんな小さいことを行っても、あなたが修煉してできたその部分が行っていることになり、神が人間のことを行っていることになり、悪いことをしても、神がやっていることになるので、次元が下がってしまい

ます。あなたが落ちることなく、同時に常人の中で修煉しつづけることもできるようにするために、修煉して一部が基準に達したらすぐ隔離され、まだ基準に達していない部分、粗い顆粒と隔離されてしまいます。基準に達したその部分は永遠に神の状態を保持し、他の空間で座禅して動こうとしません。まだ基準に達していない部分は永遠に人間と同じように常人の中で生活し、絶えず表面に向かって修煉し、つまり絶えず自らを圓滿成就させ、最も表面の分子まで圓滿成就し、同化され、基準に達し、最後の一步は即ち圓滿成就です。私たちはつまりこういう道を歩んでいます。

このように修煉しても向上したと感じておらず、時に頭に良くない考えが現れ、これはどういうことなのかと言っている学習者がいます。焦らないでください。表面にある人間としてのものが全部取り除かれたら、あなたは本当に修煉できなくなります。人間の考えがなければ、人間から反映された全ての考えを感じ取ることができます。現代人の言っていること、行っている、考えていることが皆自分のためのものであり、ひいては非常に良くない考えさえあるので、あなたは耐えられなくなります。どのように常人の中で生きていくのでしょうか？ どのように相手と付き合うのでしょうか？ ですから、このようにしてはいけません。表面において、例えば、身体の中の百の部分が基準に達したら、表面において一つの部分しか取り除くことができません。ですから、あなたは永遠に速く進歩したと感じられません。これは正常なことです。しかし、私がこのように言ったのを聞いて、「なるほど、こういうことだ。もう心配することはない。やりたいことをやればいい」と思っただけではいけません。私が説いたのは法理であり、自らを厳しく要求し、基準に従って行わなければ、修煉しているとは言えません。つまりこういう関係です。

弟子：ちょっとでもうっかりすれば、自分の正体がばれてしまいます。

師：自分をあまりに悪く言わないでください。実はあなたは修煉している人です。自分の足りないところを認識することができ、既に以前の考えを超え、もともとの自分を超えたのです。常人は自分の足りないところに気づくことができず、自分のどこも完璧で、まさに花のようだと思っています。そうではありませんか？ 自らを修め、自分を見つめ、自分の足りないところに気づくことができ、これでも修煉者ではないと言うのでしょうか？

弟子：私は二つの大きな過ちを犯したことがあり、とても後悔しています。これは私の副意識が作用しているのでしょうか、それとも私の情報が作用しているの

でしょうか？

師：もし常人の中に何かを行い、何かの良くないことを行ったら、それは自分が行ったことではないと言ってはいけません。主意識が行ったのか、それとも副意識が行ったのかも分けてはいけません。なぜならば、あなたはこの全てと統一体だからです。これらのことは思想業力が行ったとも言ってもはいけません。なぜならば、これはあなたの主意識がしっかりしていないから引き起こされたことだからです。取り除かれるまで、あなたを妨害します。業力が減されていないときの表面の行為を皆自分だと思ってしまうことがあります。それを強く排斥し、はっきり区別し、主意識を強くすべきです。これはまた別のことです。ですから、それを排斥しなければ、行った全てのことはあなたがやったのだと言うしかありません。修煉とは、これらの良くないことを取り除くことであり、同時に主意識を強めるのです。今までのことは修煉の中で考えないほうが良いのです。いくら悪かったとしても、既に過ぎたことです。これから良く行うようにすればよいのです。執着にならないようにすべきです。

弟子：アメリカで開かれた何回かの法会を録画しましたが、国外の親族にあげませんでした。これは師父の考えに反しているのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、私たちの大法の修煉方法は最も良い道、最も純粋で清らかな道であると私は言っています。皆さんが真に圓滿成就できるようにするために、私は本当に皆さんに対して責任を持たなければなりません。そのため、私は大法の中であって、大法修煉に属していないものを一掃しなければなりません。私が言ったことであっても、一部の地区、ある国の弟子に言った、他の地区に適していないものをも一掃しなければなりません。ある地区で説いた、普遍性のないことも一掃しなければなりません。その目的は、皆さんが本当に修煉することができ、如何なる妨害をも受けないようにするためです。こういう目的です。

現段階において、師父が今日ここで説いたことを持ち帰って学習者に見せたら、学習者が向上し、受益することができるのではないかと知っている人がいます。録画したら録画したで、良いのです。しかし、歓喜心、興奮している心で社会で広めないでください。戻ったら煉功点の人、または自分の国の学習者に見せることをしてはいけないということではありません。しかし、どのようにこのことに対処すべきなのでしょう？ あなたが弟子なので、私は詳しく言う必要はありません。見終えたら、または説法の本が出版されたら、ビデオを消去すればよいのです。勝手にコピーして他の人にあげたり、流したり、または出版社や工場に大量生産してもらったりしたら、最も悪いことをすることになります。私に言わ

せれば、大法弟子としての基準に達していません。

弟子：以前修煉が精進しておらず、色の関を何回か乗り越えることができませんでした。今改めたら、師父はまだ私を見守ってくれるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、一回か二回くらいで関を乗り越えることができなければ、修煉できなくなるのではないかと思わないでください。修煉は実はこちらのことであり、修煉がよくできた人がこの関を乗り越えましたが、少し劣っている人はこの関を順調に乗り越えることができず、ひいては乗り越えることができませんでした。しかし、他の関を乗り越えることができました。このように良く行ったり行わなかったり、しっかり乗り越えたり乗り越えなかったりしますが、これが即ち修煉です。誰もが全ての関を乗り越えることができれば、修煉する必要はなくなり、この場で皆佛になります。こういう道理ではありませんか？ しかし、関をいつも乗り越えることができなければ、重視しなければなりません。長く続くと、修煉していると言えますか？

弟子：『轉法輪』を勉強する前、私は気功で病氣治療することを職業としていました。法輪功を習ってから、既に止めました。今漢方と針灸を習い、これを職業にしても良いのでしょうか？

師：全然問題ありません。漢方は人類社会の医療手段の一種であり、人間のものです、修煉と矛盾していません。気功で病氣治療することはくれぐれもしないでください。漢方と針灸を学ぶのは問題ありません。学んでも良いし、行っても良いのです。

弟子：私たちのところは学習者が少なく、しかも遠く離れて居住しています。国内のような法を勉強する環境はありません。どのようにこういう環境を切り開くのでしょうか？

師：ご存知でしょうか？ 当時私は北京で法を伝えていたとき、一期目は200人余りしかいませんでしたが、現在一億人がいます。皆さんは法を他の人に教える義務があり、将来増えてくるのではありませんか？ 環境は自ら切り開くものであり、多くの人と一緒に煉功することは確かに良いことです。お互いに切磋琢磨し、促進し合い、一緒に修煉のことについて話し合うことによって修煉に対する気持ちを固めることができます。同時に集団で煉功するときの場のエネルギーが非常に強く、確かに人々の修煉に有益なのです。これは間違いのないことです。一人で修煉していると、忙しくなったら、煉功を忘れてしまい、煉功の時間も決まっておらず、緩んでしまいがちです。これは間違いのないことです。

弟子：なぜ私が見たほかの空間の人が皆西洋人の姿かたちをしており、中に羽のある天使もいるのでしょうか？ 東洋人を見たことがありません。

師：見たら見たで、気にしないでください。あなたに明かしてしまったら、他の執着と誤解が生じてしまうのではないかを心配しています。今は中国人、またはスウェーデン人、あるいは他の種類の白人ですが、実は他の人種の人であるかもしれません。宇宙は余りに膨大です。修煉して成就したら、西洋の神の世界のような世界に行くかもしれません。こういう状況かもしれませんが、私はきっとそうなるとは言っていません。しかし、如何なる執着も起こさないでください。如何なる歓喜心と誤解も持たないでください。これから佛家のものを修煉しないとと思ったら、それではいけません。私が今日皆さんに伝えた法を修煉しなければ、その世界に行くことができません。先生が伝えているのは佛家のものだから、明日からカトリック教にお祈りにいったら、元のところに戻ることができなくなります。私は既に言いましたが、私は佛家の基点に立っていますが、伝えているのは宇宙の法です。宇宙の法の範囲に入っていない法門があるのでしょうか？ こういう道理です。法はますますはっきりと説かれています、皆さんの修煉に良くないかもしれません。これは皆あなたが自分で修めるべきことで、自分で悟るべきものです。

弟子：家族にある功を練習しないようにと忠告しましたが、夜の夢の中で自分を制御することができず、家族に灌頂されてしまい、多くの良くないものが入ってきました。目が覚めると頭が痛くなり、それ以降いつも頭が痛いのです。どのようにしたら良いのでしょうか？

師：あなたは自分を制御することができず、つまり、灌頂されたときにそれに反対しなかったのです。反対しなかったら、つまりそれを受け入れたということです。あなたの一念の間違いで、灌頂されることに同意してしまいました。教訓を覚えて次回しっかり制御できるようにしてください。大丈夫です。今回は試されたのです。あなたの頭痛という感覚は偽ものであり、悟性を高めなさいとあなたを諭しています。夢の中の試練は修煉ではなく、この状態下であなたの修煉がしっかりしているかどうかを試しています。こういうことです。もし夢の中でもしっかり制御することができれば、この問題において、着実に修煉したと物語っています。しかし、これは今回の状況について言っているのですが、多くの夢は夢とは限りません。魔が本当に来たら、このような状況ではなくなります。

弟子：師父はこの世界が汚いとおっしゃいましたが、この世界のものがほかの空

間にとって非常に貴重であるとおっしゃいました。どのように理解すればよいのでしょうか？

師：この世界のものをそのまま他の空間に持っていったら、誰も要らないのです。これを最も汚いもの、糞よりも汚いものと見なされてしまいます。本当にそうです。しかし、この世界の物質が演化の過程を経て、その境地の物質になるまで昇華したら、非常に貴重なものになります。こういう関係です。つまり、一部の物質はこの世界に由来を持っていますが、この世界の物質はまた上から落ちてきたものです。そういう関係です。天機を全て明かしてしまいました。

弟子：元嬰がこの世を出るまで修煉したとき、天目が元嬰を見ることができます。中次元に入る基準とは何でしょうか？

師：以前の世間法の修煉方法の場合、それを見ることができます。以前道家は元嬰が七、八歳の子どもになるまで修煉した時、元神が中に入って元嬰を司るのです。元嬰が体から飛び出てきて、これは元嬰出世と言います。元嬰は我慢することができず、とても興奮しています。それが佛体であり、外に出て動いたり、遊んだりしたいのです。元嬰が体にあって、外に出てきていなければ、元嬰出世とは言えません。しかし、私たちの場合、外に出ることを許していません。少なくとも現段階ではだめです。先ほど言いましたが、この空間だけがまだ片付けておらず、ここはとても汚く、危険なのです。高次元の空間を処理する過程の中で、高次元の空間から多くのものが逃げ込んできました。ひいては次元の高い非常に良くないものさえあります。町を歩いている人間の中に、人間のように見えますが、実は人間ではないものもいます。あなたに見えることができれば、この世界を見てみて、宇宙人もたくさんいます。しかし、人間と同じ姿をしており、見分けることができません。これらのものを全部処理しなければなりません。

中次元に入るための基準はなんのでしょうか？ あなたがどこまで修めることができるのかは、あなたに分かりますか？ どこがあなたの中次元なのでしょう？ あなたの修煉を守るため、今このように修煉させています。ですから、あなたはそれを知ることができず、知ることも許されていません。いったん知ってしまえば、あなたの執着心と歓喜心を起こしてしまい、どういう行動をするのかをあなた自身も分かりません。以前このように修煉した人の中の幾人がだめになりました。ある日、突然自分の佛の姿かたちが見え、気功師になりました。自分が佛だと思い、気功師になり、誰のことも認めなくなり、先生のことまで認めなくなりました。心が動じないと言っても、現在の状態下で、この環境を離れて何かを見たとき、心が動じないことがあり得るのでしょうか？ ですから、皆さん

がより速く向上できるようにするため、見させていない人もいます。しかし、多くの人に見させています。それぞれの状況が違います。多くの弟子はもうすぐ圓滿成就し、実は既に圓滿成就しましたが、動かないようにしています。しかし、彼に多くのことが分かっており、私に話しかけたり、私を見たら、話したいと思っています。これは今までなかった現象であり、不可能なことです。つまり、私たちの弟子の修煉が非常に速く進んでいるということです。

弟子：いつも威張っている弟子の様子を見ると、遠くに離れたいと思っています。これは正常な現象なのか、それとも修煉がよくできていないからなのでしょう
か？

師：正常な現象としか言えません。この執着心のある学習者が確かにいます。他人が念を動かすことによって引き起こされたその人の執着心に耐えることができ
ない学習者がいます。特に新しい学習者から反映してきた考えが多いのです。し
かし、このような学習者の修煉が良くないと言っているのではなく、彼にまだ取
り除かれていない心が現れたからです。修煉はこういうことであり、他の人に良
くない心があるのを見て、その人が良くないと言っ
てはいけません。また、ある
ことが良く行われたら、このことをした人を高くまで修煉したとも言っ
てはいけません。全体から人を見ないといけません。

弟子：師父は『道法』の経文の中で「人為的に邪な魔を助長してしまった」とお
っしゃいましたが、この邪な魔とは何でしょうか？

師：魔は何でしょうか？ 他でもなく魔です。この宇宙にもともと魔がいるので
す。何を指しているのかと言うのなら、つまりこれを指しています。主に心性
または考えから魔性的なものが反映してきますが、つまりこの人にまだ魔性
があるということです。学習者の間に時にお互いに相手の魔になることがあり
ます。他の人を邪魔してしまうことがあります。しかし、この学習者が魔であ
ると言っ
てはいけません。この作用をしたとしか言えません。この人がとても素晴らし
く修煉しているかもしれませ
ん。ただ、このことをしっかり行うことができず、他人を邪魔してしまっ
たのです。思想業力の重い人もおり、「道法」という経文
の中で言われている魔は法とあなたの修煉を破壊するもので、この類のものを私は
守ってあげることができないと言
うことではありません。皆さんに教えますが、
修煉の中で現れてきた全ての状況は皆あなたと関係があるので、修煉しなければ
なりません。

弟子：法を得た一面はどのように法を正すべきなのでしょう
か？

師：あなたは『道法』について聞いています。ここで具体的に説明しませんが、『道法』をどのように理解しても、ずれることはありません。ただあなたの理解の度合いに限りがあります。実は私は皆さんの人間の一面だけに対して書いたのではなく、既に修煉してできたその一面のために書いたのです。ですから、理解できたところで良いのです。

弟子：新疆の弟子は師父がいらっしゃることを期待しています。

師：私にきてほしいのですね。皆さんの気持ちはよく分かっています。ありがとうございます。私にきてほしいところはたくさんあります。機縁によって決めましょう。

弟子：とても弘法したいのですが、良く行うことができず、自分の不注意で大法を破壊してしまうのではないかと心配しています。どのようにすべきでしょうか？

師：法を学んだ自分の体験を話せば良いのです。法を自分の話として話してはならず、法を間違っ理解しそれを話してしまうことをしないでください。自分の体験を話せば良いのです。大法を破壊してしまうのではないかと心配していれば、次のように話せば良いのです。つまり、あなたがこの法から何を会得したのか、それがどういうものなのかを話せば良いのです。更に、この法の中に非常に大きな内涵があり、これは私の今の境地で会得したものだけだと付け加えればよいのです。これは大法を破壊しているのではありません。または先生がどのようにおっしゃったのかを言って、本人に認識してもらえばよいのです。これは法を破壊しているのではありません。もし私が言ったことを自分の話として言ってしまったら、無意識のうちに良くない作用をしてしまいます。時々、自分の観念を法の中に加えてしまう人もいます。この話はこういう意味で、あの話はああいう意味だという状況です。このように解釈したら、大変なことになります。これで法を勝手に解釈することになるのではありませんか？ 実は法にとっても深い内涵があり、彼には解釈することができません。法の中にこのような内涵があると認識しましたが、中に更に深い内涵があると話すしかありません。このように話すのは大丈夫です。

弟子：無為の状態で常人の中のことにかかわってはいけませんが、至るところで相手のために考えなければなりません。どのようにこの関係を扱うのでしょうか？

師：私は法の中である法理を説きました。つまり、誰もが自分の心を修め、自分

を良い人にし、更に良い人、ひいては高い境地の基準に達する人にならなければなりません。問題が起きたら、自分の内心に向かって探し、遭遇した社会のこのことあのことにかかわってしまったら、正しくかかわることができなくなり、間違ってしまうかもしれません。ですからできるだけやらないように、かかわらないようにすべきです。昔の和尚はなぜ出家したのでしょうか？ ひいては綿で耳を塞いで一日何も聞かず、何も聞こうとしません。何かをしゃべってしまうのではないかと恐れ、口を塞いでしまいました。良くないことを聞いたら、至るところで業を造っていると昔の和尚は気づいたのです。

悪い人とはどういう人なのか、ご存知でしょうか？ 悪い人はなぜ悪くなったのでしょうか？ 頭の中に悪いことを多く入れられ、身についた悪いことが多すぎて、頭は悪いことでいっぱいです。このような人の行いがどのようなものであっても、悪い人です。これらの悪いことはどこから来たのでしょうか？ 自分で聞いたからではありませんか？ 何も受け入れず、良くないことを聞かず、見ても目に入らず、耳があっても聞こうとしません。良い人とはどういう人なのでしょうか？ 頭の中は良いことでいっぱいです。このような人が良い人です。頭の中が良いことばかりであれば、行ったことも基準に達するのです。人間の行動は皆脳に指揮されているので、もちろん、良いことを行います。修煉者として、いつも常人の中のことに関わりたいと思っており、因縁関係が分からなければ、間違ってしまう恐れがあります。あなたの仕事なら、関わらないとももちろんいけません。常人社会の中で誰かが他の人を蹴ったとか、罵ったとか、二人の間にトラブルがあったり争いがあったりして、あなたが弱い人の味方になったら、これはすべきことではありません。なぜでしょうか？ 警察と責任者がおり、しかもあなたが関わったら、参与することになり、しかもあなたの関わり方は正しくないかもしれません。もし前世でその人が相手を蹴ったことがあるのならば、実はこの世でそれを返しているのです。あなたが関わってしまったことによって、返すことができなくなりました。人間の道理から見れば、良いことをしたのですが、業を返すこのことを按排した神から見れば、あなたは悪いことをしたのです。なぜならば、修煉者を常人の基準で量ってはいけないからです。つまりこういう意味です。これらの有為のことをしないでください。

それでは、如何なる場合でも相手のために考えるには、どのようにしたら良いのでしょうか？ 私が最大限に常人社会に符合して修煉すべきであると言いましたので、人間と接触し、中に利益が関わってきます。利己的で、どんなことでもまず自分を考え、相手を考えないのであれば、私が思うにはそれではいけません。

なぜならば、なんと言っても、あなたは社会の人々と接触しなければならないからです。仕事するとき、やる気がなさそうに、座っているだけで何もやろうとしないければ、上司に首を切られると思います。人類社会の生存状態に符合しなければならないからです。人間と接触し、人々に善を持って接し、何かをするときにまず相手を考えなければなりません。今社会で商売をしている人は他の人のお金を全部取ってきて、成金になりたいのです。この点において、ヨーロッパの白人が商売をするときの心の状態は非常に良いと思います。彼らはそれを事業、仕事として見ており、力の及ぶ限りで努力しています。一日お客さん一人しかいなくても、それが少ないとは思わず、これが仕事であり、生活の一部として考えており、仕事をやっていると思い、生活を維持することができ、少し蓄えがあれば十分だと思っています。これは人間のもつべき状態です。今の人々はすぐに大金持ちになりたいという気持ちが非常に強いのです。この考えによって、人々はお互いに傷つけ合うようになり、他人のお金を全部自分の懐に入れたいというようになっています。他の人は困るのではないですか？ 他の人も苦しんでいるのをなぜ考えないのでしょうか？ 何かをするときにまったく相手のことを考えていません。これは今の人類社会の変異した人類の考えです。何かをするとき、相手がそれに耐えることができるかどうかを考えるべきであり、これが人間なのです。

弟子：『取中（極端に走らない）』という経文の内涵をもう一回説いていただけませんか？

師：学習者として分からなければならないのは、人間の感情と考えで法を認識してはいけません。簡単に言えばこういう道理です。今日ある人が私を取材しました。彼は例をあげて宇宙の中と外がどういう状態なのかを話しました。あなたが言ったその概念は人間の考えによるものだと私は答えました。この宇宙の中であなたが言ったような中と外はなく、この概念はありません。あなたが言ったのは人間の思考と考えによるものだと答えました。つまり、人間の考えを変える必要があります。普段の生活の中も、法に対する認識において、本当に人間の考えで対処してはならず、あなたが放棄できないそれらの人間のことを固守して法を認識してはいけません。「取中（極端に走らない）」の表面的な意味はつまり、極端に走らないということです。

弟子：天上の大佛の威徳は皆彼らが自分で修煉してできたものだと師父がおっしゃいました。しかし、佛の世界では修煉がとても難しいので、彼らは皆この世に戻って修煉しないとイケないという意味なのではないでしょうか？

師：宇宙の中の生命の由来は二種類あります。一つは親から生まれるということ

です。もう一つは宇宙の物質が運動することによって生じたのです。その境地で生じた生命の境地はその境地にあります。低次元のものに汚染されることはなく、低次元の基準に要求されることもありません。彼は生まれたときからその境地の基準と一致しており、その境地で生活しています。これ以外の生命は修煉によってその境地に達したのです。私は修煉者の皆さんに修煉について主に説いています。修煉によって上に行った生命は宇宙の中で本当にわずかしきありません。多くの生命はその境地で生じたのです。

弟子：多くの学習者の弘法に対する熱心さにとても感動していますが、私自身はとても無関心です。どのようにこの状態を変えることができるのでしょうか？

師：これについて私は特に要求はありません。学習者誰もがしなければならず、この法を他の人に伝えるべきだとは言っていない。この熱心さがなく、法を得ても、他の人に伝えたくなければしなくても良いのです。どうしてもやらなければいけないということではありません。あなたの間違いだとも言えません。しかし、弟子として慈悲を持っているから、他の人が苦しんでいるのを見れば、他の人に伝えるべきです。他の人にいくら多くのお金を渡しても、どんなに助けてあげても、法を伝えてあげることより役立つことはありません。これは最も良いことを行っているからです。

弟子：音楽テープを流さずに煉功するとき、動作の速さは効果に影響するのでしょうか？

師：いくら速くなっても速くなりすぎることはなく、いくら遅くなっても遅くなりすぎることもありません。この速さに決まりはなく、どうしても私と同じでなければならないほど正確にすべきだということではありません。こういうことではありません。私たちは機制を強めていますが、大体録音テープと一致していれば大丈夫です。皆さんと一緒に煉功するときに、動作を同じにし、揃えなければなりません。

弟子：元嬰は本人と同じ大きさまで成長したら、成長が止まってしまうので、子どもは大きくなってから修煉したほうが良いのでしょうか？

師：人間はなぜ元嬰と比べられるのでしょうか？ 元嬰そのものは修煉によってできたのです。今たくさん子どもが修煉しているのではありませんか？

弟子：他の人の考えがいつも私の頭に入ってきます。その人が眠くなると、私も眠くなります。その人が怒ると、私も腹立ちます。

師：これは修煉の中で現れた状態です。つまり、あなたの毛穴が全部開かれ、外の情報があなたに影響することがあります。これは機能ではなく、修煉の過程の中の一つの状態に過ぎません。相手のどこかが痛くなると、あなたも痛くなり、相手の気分が悪くなると、あなたもそうなります。彼が喜ぶと、あなたも一緒に喜んでしまいます。実はこれはあなたの体がすっかり通っているときに現れた状態です。しかし、この状態はすぐ過ぎてしまいます。あなたの修煉が速くなればなるほど、この状態は速く終わってしまいます。

弟子：法を勉強して日がまだ浅い国内の学習者が亡くなったと聞きました。亡くなる前に、ずっと薬を飲まなかったそうです。このような生死を恐れていない人がなぜ亡くなったのでしょうか？

師：病気にかかっている人は心の中で私に病気を治してもらうために、薬を飲まないでいるのか、または自分を煉功者としてみなしているのか、表面から分かるのです。常人が重病にかかり、死んでも薬を飲まないとすれば、この人は死なないのでしょくか？ もちろん、死んでしまいます。死ぬべき人間だったら、死んでしまいます。彼は常人なので、勝手に常人の命を延ばしてよいのでしょうか？ 本人は自分が煉功したと言っていますが、皆さん考えてみてください、今日法輪功を練習して、本を読んだら、それで大法弟子になったのでしょうか？ 精進しておらず、本当に私が教えた要求にしたがって行っていないければ、私の弟子であり得るのでしょうか？ あなたが弟子かどうかは、私があなを弟子として認めているかどうかによります。つまり、あなたは弟子としての基準に達しているかどうかの問題です。毎日の煉功は体操のようにやっており、本を読んだが、頭の中に入っておらず、精進もしていません。また、本に書かれた要求にしたがって行っていないければ、私の弟子であり得るのでしょうか？ このような人は常人のままではありませんか？ 常人は病気にかかったら、川に溺れた人は藁をも掴むような気持ちです。私が人の病業を取り除くことができ、この功が業を滅しているとき薬を飲まないのだと知り、彼も煉功をし、煉功すれば薬を飲まなくても病気が治り、これで死ななくなると勘違いしています。彼は常人のままであり、更にこれほど強い執着を持っており、彼は死なないわけがあるのでしょうか？

大法は厳粛であり、修煉は厳粛なのです。命が終わるべき人の命を勝手に延ばし、軽々しく常人を佛にし、圓滿成就させ、これはやってもよいのでしょうか？！ 自分の心を修め、更に心が根本から変わらなければ、それも修煉しているとは言えません。表面では良く行い、内心では少しでも自分に執着していれば、基準に達したとは言えません。なぜならば、修煉は最も厳粛なことであり、本質から変

化しなければなりません。ご存知のように、法輪功を練習している人がたくさんおり、中にガンやその他の重病にかかった人が皆治りました。その数は相当多いのです。これは私が言わなくても、学習者は皆知っています。

ガンや他の重病にかかった危篤状態の人が法輪功を習いに来ましたが、やはり死んでしまいました。なぜでしょうか？ 口では法輪功をやっていると言っていますが、考えの中で自分の病気をまったく放棄していません。それで、「彼は一生懸命法輪功をやっており、薬を飲まないようにと私たちに言っており、病気に対する執着を放棄しなさいとも私たちに教えました。しかも、私たちの法の勉強を手伝ったりしているのに」と思う人がいます。しかし、彼自身は病気に対する執着を放棄しているとは限りません。彼が心の中で何を考えているのかは分かりません。これほど複雑なのです。他の人に放下するようには言っていますが、先生にそれが聞こえると分かっています。先生に聞かせるために言ったのです。はっきり言えば、彼は先生をだましています。「私がこれらのことをやれば、先生は必ず私を守ってくれます。私は本を読んでおり、煉功をしています。他の人に修煉するようには教えています。先生は必ず私の病気を取り除いてくれます」と考えて、これは彼の本当の目的です。ですから、表面では彼は薬を飲まず、口でもこのように言っており、表面では私の煉功に対する要求にしたがってやっていますが、実質上煉功者としての基準に真に到達していません。「このようにすれば、師父は必ず私の病気を取り除いてくれる」と心の中でそう思っています。心の中でまだこのように考えています。しかし、根本的な問題は、師父に病気を治してもらいたいという考えが取り除かれていないということです。やはり心の中に納めており、隠しているのではありませんか？ それなら、表面では人を騙しているのではありませんか？ 私を騙しているのでしょうか？ 実は自分自身を騙しています。それなら、病気が治るはずがあるのでしょうか？

しかし、往々にして重病にかかった人に私たちは皆機会を与えています。幾度となく時間を延ばしています。病院から宣告された余命の時間はとっくに過ぎてしまい、半年一年、何年も過ぎましたが、まだ機会を与え、その心を取り除くのを待っています。しかし、彼はどうしてもそれを取り除こうとしません。口では言いませんが、心の中で「私は法輪功を練習しましたので、病気はもうないでしょう。法輪功をやったから、病気は治ったかも知れません」といつも不安に思っています。彼は自分が病気をまったく考えない修煉弟子としてみなしていません。私は皆さんに対して何の要求も無く、全部開いており、人心だけを見ているとまで言いました。人心まで見なくなったら、皆さんを済度することができるのでし

ようか？ 実は、どの法門で修煉していても、心を変えなければなりません。私たちは人心をまっすぐに指しているだけです。

弟子：法を勉強すればするほど、法の力が無辺であると感じています。全てが無辺の中にあり、果てを感じ取ることができません。これはどういうことなのか、師父にご教示願います。

師：「全てが無辺の中にある」、これも一種の試練です。圓滿が近づいてきたと感じたら、こういう感覚はなくなります。あなたのこの感覚はとても良いのです。どんな感覚があっても気にしないでください。非常に速く向上し昇華する時があります。しかし、いったん三界のこの部分の体に入ると、向上が非常に難しくなります。一步を前進させるのも非常に難しいのです。どうしても人間の観念を放棄したくないと思ってしまうほど難しいのです。これは私が見た一つの状況です。

弟子：先生はいつも時間が迫ってきているとおっしゃっていますが、大法が将来この世で広く長く伝わるともおっしゃっています。これは矛盾しているのでしょうか？

師：確かに私は時間が迫ってきていると言いました。私が人間を済度しているだけでなく、皆さんが圓滿成就したあと、私に他にやることがあると言いました。それは皆さんに教えることができません。私はこの世で法を長く伝えることができません。時間が迫ってきていると私が言ったから、速く修煉してください。私が言った話を曲解しないでください。現在のそれらの邪悪な宗教が言っている劫難と一緒にしないでください。修煉の時間は確かに短いのです。劫難はありませんが、修煉には終わりの日があります。真相が現れたら、何もかも終わってしまい、続けて修煉することもできません。しかし、人類は存在していき、修煉は永遠に存在します。それは将来の修煉形式になります。

弟子：常人社会の中で生活や仕事に真面目に対処し、仕事と家庭に対して責任をもち、いいかげんな事をしないのは、執着と言えるのでしょうか？

師：あなたの言っていることが間違っていると私は言えません。しかし、あなたの話の中に人間のものがかなりあるということも私は否めません。なぜならば、常人社会のこれらのことをしっかり行うときに、佛の考えで行うことができず、佛の考えで行ったら、それはできないことです。ですから、これはやはり人間の考えです。ただ異なる次元の異なる状況の現れに過ぎません。

弟子：『轉法輪』の英訳版が読みにくいと言っているアメリカ人がいますが、ア

メロカ人の中の大法の将来についてお話をいただけませんか？

師：皆さんに教えますが、英訳版が難しいのではなく、英訳版はとても上手に訳されています。特にアメリカで出版された『轉法輪』は非常に分かりやすいのです。この大法の内涵はとてつもなく大きいので、物事をシンプルに考えるアメリカ人が読んで、難しいと感じました。頭を使う習慣のない若者には確かに理解しがたい部分があります。在席の人の中に『轉法輪』を読んで、全部の内容をすぐに理解できる人はいません。学べば学ぶほど難しいと感じるのです。ご存知のように、三蔵法師が西方にお経を取りに行ったときに、11年間かかり、様々な困難を経験し尽くし、帰ってから自分で翻訳しなければなりません。今日大法は皆さんの目の前にあり、それでも皆さんは難しいと思っています。この翻訳が良くないと思っていれば、訳しなおしても良いのです。更に良いものに訳せばよいのです。

中国で一部の学習者において、この本を翻訳してもらい、英語に翻訳してもらおうと思いました。二年間の時間がかかりました。皆さんがお互いに議論しあい、もともとの意味を少しもずれないように英語を読む人に伝えようと思っていました。彼らは大きな困難を克服しましたが、皆さんは何も苦勞せず、出来上がったものを手にしているのに、まだ難しいと言っています。本当に問題があれば、自分で中国語と照らし合わせて翻訳しても良いのです。ボストンにいるあるロシアの学習者が昨日発表したときに、私も聞いていました。彼の中国語を学ぶ過程が非常に不思議だと皆さんは思っています。こういう現象はよく見られます。努力すれば、皆彼のようになると思います。

大法がアメリカ人の間で将来どうなるのかということにいたって、皆さんに教えますが、如何なる出来事と生命がこの宇宙で行った如何なることも、その未来が見え、しかも始まりから終わりまで分かるのです。私が行ったこのことだけが誰もその未来を見ることができません。私が行う前、まったく未来はありませんでした。将来どうなるかということにいたって、現在の人類のままで進んでいくと、将来は人間が魔のようになり、非常に邪悪になります。もちろん人間が悪くなったら、暴力による衝突や天災人災が増え、殺し合いや戦いも多くなり、業力が大量に発生してしまいます。将来どうなるのでしょうか？ 非常に恐ろしくなります。修煉と大法がアメリカで将来どうなるかについて、アメリカ人の法を得る状況によります。

弟子：大法の中に他の功法を攻撃する内容があると思っているアメリカ人がおり、

これで時々問題を起こしてしまいます。

師：皆さんに教えますが、これほど大きな法が伝えられ、この本の中にも異なる人に対する試練があります。その人の心がどのように動くのかを見ています。大法は軽々しく人に得させるものではありません。たとえば、今の邪教や、偽気功は種々雑多で、たくさんあります。それらは人間を誤らせ、多くの修煉できる人は宗教のようなものに入ってしまい、自殺したりして、乱れています。私は既に話しましたが、私は人間を濟度しているだけではなく、これらの良くないものを指摘せず、それが邪なものだと皆さんに教えなければ、皆さんはどのように妨害されず専一に修煉することができるのでしょうか？ どのように皆さんに不二法門の重要性を教えることができるのでしょうか？ 大法は軽々しく人に得させるものではありません。これらのことに執着していれば、妨害され、大法を得ようとしませんが、本人が得たくなければ、得なくても良いのです。他の法門を放下できず専一に修煉することができない人は圓滿成就することができず、更に大法を破壊してしまいます。彼の個人的な感情で法を得ることができなくなったのです。大法は厳粛なものであり、誰でも法を得ることができるということではありません。私たちは大法を広く伝え、縁のある人に得てもらい、法を得ることのできる人に法を得てもらうことができます。しかし、確かに法を得ることができず、本を読むことができない人がいます。このような人は多分障碍に遭います。障碍を突破できる人は、まだ縁があるかもしれません。

弟子：正式に発行された先生の法像にある手印が異なっています。その中の内涵を教えてくださいませんか？

師：法会で使っているこの法像以外、手印を打っているほかの法像を発行したことはありません。手印がとても複雑で、今日皆さんに法を説くために話したたくさんの方の事のようにです。動いている手印が即ち言葉です。一連の手印を打ったら、即ち法を説いたのです。話しても良い話であれば、手印は打たないのです。それらの話を言っただけではいけないのです。今日私が高い次元のことを説いたと皆さんが思っていますが、きっとそう思っています。手印はこれよりどれくらい次元が高いかが知れません。真相を打ったのです。理解できれば理解してよいのですが、できなければ、別にたいしたことはありません。

弟子：私たちは弘法のために西洋社会に来るように按排されたのだと思います。将来適切な時間に東洋に帰るのでしょうか？

師：もし西洋に移民してきたのであれば、それがなぜなのかは私は何も教えることができません。今どこに行っても良いのです。将来圓滿成就したら東洋に戻る

と言っていますが、圓滿成就して、また地球に来てどうするのですか？

弟子：腎臓移植手術が失敗して、腎臓が摘出された人が、縁があって法輪功を学び、普段心性の修煉に励んでいます。今生で修煉して圓滿成就できるよう望んでいます。機会があるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、多くの方が手術のことに言及しました。この体のある器官が摘出されたら、まだ修煉することができるのかと言っています。実は、手術はこの空間での手術であり、ほかの空間の体に少しも触れることができません。ですから、摘出されたのも表面のこの空間にあるものです。体の本質上のものに触れることができません。つまり、ほかの空間では何も無くなっていません。しかし、皆さんは確かにこの空間の体でなければ修煉することができません。もし本当に修煉の基準に達することのできる人なら、どんな奇跡をももたらされます。しかし、その基準に達することができなければ、何にも与えることができません。ですから、修煉はほかでもなく、厳粛なのです。

弟子：悟りましたが、それをやり遂げることができず、またはしっかり行うことができなかつたら、それはやはり悟らなかつたのでしょうか？

師：悟りましたが、しっかり行うことができなかつたのは、悪いと知りつつそれでもやってしまったということです。悟っていないのではありません。実は私は冗談を言いました。皆さんに教えますが、多くの方が理をはっきり分かっていながらも、関に遭うときにやはり心の中で放下することができません。そうではありませんか？ そうでしょうか？ (皆答えて：そうです) なぜでしょうか？ 意地のための人もいれば、情を放下することができない人もいます。そうではありませんか？ ですから、分かりながらもやってしまいました。修煉しているのですから、いつまでもこのようにしてはならず、関を乗り越えなければなりません。

弟子：死水に「真善忍」があるのでしょうか。

師：宇宙は真善忍という特性によって構成されており、それがどういう概念なのかに関わらず、ある一定の概念の中でそういう状況です。ほかの概念になると、また違ってきます。興味本位や知識への探求から修煉を考えてはならず、これではいけません。心を修煉に用いてください。

弟子：羅漢を超えた次元まで修煉しようとするれば、衆生をあまねく済度する願を立てなければならぬのでしょうか？ この願を立てなければ、低次元に留まっ

てしまうのではないのでしょうか？

師：私はあなたの考えをこの方面に導いたこともなく、これらのことを話したこともありません。どの宗教から聞いたのでしょうか？ 何の願を立てるのでしょうか？ 皆さんに教えますが、皆人間の情です。この問題を出したから、佛教徒がなぜこのように言うのかについて話します。現在の佛教は願を立てると言っていますが、それは人為的なことではありませんか？ 有為の心ではありませんか？ 求めがあつての心ではありませんか？ 佛教の中で願を立てて、衆生をあまねく済度すると言っていますが、この願を立てれば、佛になれると思っていますが、これは冗談ではありませんか？ 本当にその境地まで修煉して、それほど多くの苦を嘗めて、高く奥深い境地に到達してはじめて佛になれるのです。今衆生を救済しようと言っていますが、まだたいした次元に達していないのにどうやって衆生を救済するのでしょうか？ 実は多くの佛教徒が言っている衆生をあまねく済度するという話の中に、人間の情に対する執着と顕示心が含まれています。私の話は人間の核心を掴み取ることができます。人間にはなぜ佛の境地における衆生をあまねく済度することの内涵があるのでしょうか？ 人間が今言っている衆生をあまねく済度するという話は顕示心と複雑で一途に思う妄想による執着ではありませんか？ これは人間と情と未来の現れに執着している心によるものではありませんか？ 佛教徒が末法の時期にそれほど神聖なる境地があるのでしょうか？ これはありえないことです。

更に、衆生をあまねく済度することを軽々しく言つてはならず、勝手に行つてよいことでもありません。釈迦牟尼佛が世に下つたとき、どれほど多くの佛、道、神の許可、またどれほど更に高次元の佛、道、神の許可を得てはじめて、やつと下ることができたのでしょうか？ 特殊な情況のほか、誰も下ってくる勇氣はありません。下ってくるということはつまり落ちてきたということです。戻るときに、修煉しなければなりません。誰に下ってくる勇氣があるのでしょうか？ 三界は誰でも勝手に入っていいというところではありません。人類に汚染されることはないとあなたが言っていますが、人間が肥溜めに飛び込んだら、汚染されずに済むのでしょうか？ もちろん汚染されてしまいます。そうではありませんか？ 勝手に行うことではありません。宗教の中で非常に神聖なる話、佛家の言葉、神の言葉、修煉中の言葉ですが、常人の中で軽々しく語られています。価値がないように言われており、その神聖な内涵がなくなりました。

更に、羅漢は衆生をあまねく済度する願望はありません。なぜでしょうか？ 羅漢は自覚覚者であり、羅漢と呼ばれています。自覚覚者とは何でしょうか？ 自

分を修め、三界を出るまで達し、圓滿成就したら、勝利し解脱したと言えます。ですから、ほかの人を済度する願望または目的はまったくありません。菩薩は佛に協力して、衆生を済度することを行っています。菩薩は自分の世界に人間を済度すると言っていますが、菩薩は世界を持っておらず、佛の世界にいるのです。彼女が人を済度しようとするとき、佛がその人を要るかどうかなを見なければなりません。この道理ではありませんか？ 佛が人を済度するとき、菩薩が佛に協力して具体的にそれを行うのです。こういう関係です。

弟子：私は全力を尽くして執着心を放棄することだけをして、放棄できてもできなくても、それは師父がやることなのでしょうか？

師：それなら私が修煉することになるのではありませんか？ 過程はこういう過程ですが、このように理解してはいけません。

実はあなたが問題を認識し、あつてはいけない執着心を本当に認識することができれば、その瞬間既に基準に達したのです。師父はもちろん表面の物質を取り除いてあげます。これは師父が何かをしたということでもありません。あなた自身が修めたからです。

弟子：どのように慈悲と無為の関係に対処すべきなのでしょうか？

師：羅漢の境地、菩薩の境地に達すると、人間の情はなく慈悲だけです。人間は情のために生きており、つまり、人間は情の中に漬かっており情を振り切ることができません。情から抜け出すことができなければ、修煉することもできず、向上することができません。無為にいたっては、これは修煉の中の要求の一つです。もし宇宙の中である相当高い境地に到達したら、次のような状態が現れることがあります。つまり、何でも知っていますが、何もやりたくはありません。おもちゃで遊ぶよりも簡単に何でもできます。頭が非常に賢い大学生にいくつかの簡単な木のかけらと一緒に遊ばせたら、遊びたいでしょうか。遊びたくはありません。一目瞭然で、いくつかの木のかけらに過ぎず、何が面白いのでしょうか？ 触ろうともしません。修煉の中で無為を説いていますが、あなたが業を作らないようにするためです。情に入らず、無為の基準に達することができれば、既に慈悲の境地にいます。

弟子：私はある雑誌の非常勤の編集者です。弘法のために『轉法輪』を掲載したいと思いますが、紙面の関係で、いくつかの部分抜粋するしかできません。

師：これは良くないことです。一つは、この雑誌に何でも掲載されているので、

法を掲載するのに良くはありません。更に、こういう抜粋は断片的に意味を取っているということであり、人に理解されず、それらの文人に借用され人間の何かのものになってしまう恐れがあります。ですから、くれぐれもこのようなことをしないでください。断片的に内容を切り取って意味を理解するようなことをしないでください。

弟子：古い学習者が煉功点に行かなくても、これは正常なことだと先生がおっしゃいました。彼らがこの環境の中に行って修煉が良くなるようにと師父は勧めていないのでしょうか？

師：あなたが考えているほど簡単ではありません。ご存知でしょうか。私は皆さんを済度するために皆さんのこれらのことまで配慮しなければなりません。つまり、異なる境地の人、異なる状態の人に煉功点に行かせたら、彼は非常につらいのです。皆さんが言ったこと、行ったことは彼にとってつまらなく、たまらないことです。本当にそうなります。この状態ではありませんが、ただ外に出たくない人なら、私が思うには、改めるべきです。外に出て煉功するのは皆さんにとって有益なのです。もし仕事で本当に時間がなければ、それは大丈夫です。それなら好きなようにすればよいのです。

もちろん中国でこのようなことがあります。中国の学習者は朝晩外で煉功しています。朝四時と夜六時ご飯を食べてから、皆と一緒に外で煉功しています。一日二回煉功します。彼らはこのように煉功するのが非常に良いと感じました。しかし、海外で多くの地区の学習者は様々な言い訳をもってこのように煉功していません。皆さんに教えますが、皆さんは私が伝えるように行えば、良いことはありますが、害はありません。忙しくて時間がないと言っていますが、実は皆さんは睡眠をしっかり取れないことを心配しています。皆さんは考えたことがあるのでしょうか？ 修煉は最も良い休みです。あなたが睡眠で得られないリラックスを得ることができます。煉功して疲れて、今日何もできないと言っている人はいません。煉功で体中が楽になり、一晩寝ていなくても眠くなく、元気いっぱいということはありません。一日仕事をしてまったく何もなかったかのようです。そうではありませんか？ ですから、時間がないとか、ほかの口実を作って外で煉功しない人は、私に言わせると、法に対する理解が浅く、精進の気持ちが足りないのです。もちろん、古い学習者のその状態とは厳格な区別があります。しかし、その状態に達していないのに、それを言い分けにして外に出ないのは正しくありません。修煉はつまり自分を修めることであり、ほかの人を騙すのはつまり自分を騙すことです。

弟子：高次元に飛行機がとっくに存在していますが、高次元の人は飛ぶことができるのではありませんか？ なぜ飛行機を使っているのでしょうか？

師：皆さんに話したことがあります。異なる空間において、天上の至るところに佛がおり、皆神と同じ生命ではありません。生命と生命の間に大きな差異があります。人類のこのところもありますが、非常に少ないのです。しかし、宇宙人のような生命がいるところは非常に多いのです。そのような生命は飛ぶのであって、飛行機に乗るのです。私は皆さんにこれを話して、皆さんの考えをそちらのほうに、つまり好奇心のほうに導いてはいけません。生命は非常に複雑で、どんな世界もあり、宇宙は非常に繁雑なのです。今地球に白人、黄色人種、黒人がいますが、向こうの空間では緑、青、柄模様の人種まであります。多種多様で何でもあります。あなたが想像すべき問題ではなく、人間の考えでこれ以上これらのことを考えないでください。

弟子：法輪功は緩やかな管理体制を取っていますが、有形の組織とどういう関係なののでしょうか？

師：緩やかな管理体制で、有形な組織構造はありません。来たければ来て良いのですが、来たくなければ帰っても良いのであって、名簿もありません。人間の表面において、誰もあなたが誰なのかを知りません。このようなことではありませんか？ 皆自分の意志に基づいて学んでいます。皆先生がどこに行ったのかを聞いて、法を聞きに来たのではありませんか？ 私は皆さんがアメリカに法を聞きに来るように動員しなかったでしょう。まったくそういうことはありません。修煉してもしなくても自分の意志によって決めます。いったん常人の中の管理方式があったら、どんな常人の心も湧いてきます。修煉できなくなるほど執着してしまい、法を乱してしまう恐れがあります。

弟子：「佛性無漏」のなかの無漏とは何でしょうか？

師：「無漏」とは以前の佛教の中の禅の言葉の一つです。つまり佛教の中の修煉の言葉です。たとえば、人間に七情六欲や各種の執着心がありますが、皆情によってもたらされたものです。嫉妬心、顕示心、怨みの心などたくさんあります。どの心も取り除かなければならず、どの心も取り除かれていなければ、即ち有漏ということになります。有漏であれば、圓滿成就することができません。無漏まで修煉しなければなりません。どの心もなくなり、本当に無漏になるまで修煉してはじめて、本当に圓滿成就することができます。

弟子：毎回の新宇宙は極めて極めて次元の高い大覚者たちに立て直された後、「真、善、忍」という特性が変わるのでしょうか？

師：こういう問題はこれからもう出さないでください。考えてもいけません。「真、善、忍」の特性は永遠に変わらないのです。法が変わらないから、中の生命と物質が変化したと量ることができるのです。

弟子：法輪功の音楽は煉功者を入静させるほか、特別な何かがあるのでしょうか？

師：主な目的は人をできるだけ速く入静させるためです。音楽を聴いている時、頭の中で常人のそれらの奪い合い、でたらめなこと、商売の収益と稼いだお金などを考えなくなります。こういう方法を取りました。音楽の方法で一念をもって万念に取って代わります。音楽の背後に大法の内涵も加えられていますので、聞けば聞くほど、聞きたくなり、気持ち良くなります。

弟子：座禅をするときに、同時に先生の説法を聞いても宜しいのでしょうか？

師：私の説法を聞いていたらどのように入静するのでしょうか？ あなたの脳細胞が活発に動いて法を聞いているのではありませんか？ ですから、入静することができません。法を聞くときに法だけを聞きます。

弟子：修煉者一人が増えれば、先生がその分多くの苦を嘗めなければならないと師父がおっしゃいました。それを聞いてとてもつらいのです。なぜならば、私は多くの人が修煉するように紹介したからです。

師：このことを考えるのではないかと私は思ったのです。このように考えないでください。私に私の方法があり、皆さんはこれらのことにかまわないでください。ひたすら修煉すれば良いのです。修煉の道に導いた人が多ければ多いほど、あなたの功德が無辺になります。師父を手伝って法を伝えているのと同じです。皆さんの考えは本当に活発で、そこまで考えています。修煉の人が一人増えたら、私はその分苦勞しなければなりません。しかし、私の苦勞は皆さんが想像しているような方式ではありません。私にこれらのことをする多くの法身があります。

弟子：座禅と夢の中で空中を飛んでいると感じましたが、黄色い服を着ている佛家の生命が見えなかったのです。私は本当に見えたのでしょうか？

師：実は見えたのです。なぜ佛家の生命がなかったのでしょうか？ あなたの行くところが違っているからです。私が思うには、これらのことが見えたら見えたで、深く関わらないでください。心を修煉に用いてください。必ずこのようにし

てください。

弟子：上の空間の神は現代人を人間として見なしていませんが、今の人間が人間になるべき生命ではないと師父は昨日おっしゃいました。

師：今日の人類は確かに非常に腐敗堕落しており、神にまで見捨てられました。全ての宗教に見守ってくれる神はいません。なぜならば、神は人間があまりにも腐敗堕落したのを見て、人間を人間として見なしていないからです。しかし、あなたがどこから来た生命なのかということと、あなたを済度するかどうかということは、別々のことです。私には如何なる生命にも知られていないことがあり、私のやり方が彼らのやり方と同じだと私は言っていません。私が行っているこのことに更に大きい意義があります。人類社会は存在し続けますが、修煉によって良くなる生命、圓滿成就できる生命は異なる次元の天国世界に行きます。圓滿成就できない生命も、当初の人類の基準に達することができれば、次の文明時期の人類になります。

弟子：先生が『証実』という経文の中で、「大法は正しいものであり、本当の科学であることを証明し…」とおっしゃいましたが、私たちはどのように証明すべきなのでしょう？

師：皆さんは知識を持っており、私たちのことをよく知らない人または悪く言っている人に対して、あなたの体験、知識、実際の仕事の中の成果をもって証明することができます。

弟子：私はポーランド人です。ポーランドで弘法したいのですが、いつポーランド語の資料ができるのでしょうか？ 私はどのように手伝えればよいのでしょうか？

師：ポーランドにも一部の中国人がおり、法輪功を学び練習しています。しかし、ポーランド語に訳されていません。機縁によります。必ず私たちの弟子が翻訳してはじめてできるのです。ほかの人が翻訳しても、翻訳しにくいのです。私もあなたと同じ気持ちで、ポーランド語の『轉法輪』が早くできればと思っています。もしあなたが翻訳することができれば、それに越したことはありません。

弟子：ほかの人に『轉法輪』を紹介するときに、どこまで話せばいいのかをうまく判断することができず、知らないうちに次元の高い話をしてしまい、かえって信じられないものだと思われてしまいました。

師：そうです。皆さんはくれぐれもこのことに気をつけてください。あなたの認

識からまだ法を学んでいない人に紹介しないでください。相手を驚かせてしまいます。知らないうちに、あなたは既に次元の非常に高い話をしてしまい、それはあなたの境地であり、ひいてはあなたが更に次元の高いことを話していませんが、あなたの話の内涵に既に含まれています。それを彼の表面の考えは受け取ることができませんが、ほかの空間の考えはそれを受け取ったので、耐えられなくなります。ですから、ほかの人に紹介したとき、必ず『轉法輪』の最も低い、最も表面にある理を話してください。どのように良い人間になるのか、どのように次元を向上させることができるのかなどの簡単な理を話せば良いのです。まさにある人を学校に行かせることと同じように、あなたが大学の理を説いていますが、彼は小学校にまだ行っていません。彼はすぐ「聞いても分からないから、もう勉強しない」と言うのです。この道理ではありませんか？

弟子：足がなく（片足だけ）、手もなく（片手）ですので、足を組むことができず、動作をすることもできませんが、どのように修煉するのでしょうか？

師：私は話したことがあります。大法を修めることは厳粛なことです。私がここで法を伝えたのは人々が修煉することができるようにするためです。つまり、修煉できる人のためです。しかし、人間の心を重んじています。手も足もありませんが、修煉する心があれば、片足、片手でも奇跡が現れると思います。肝心なのは、人間の心です。

弟子：座禅して定に入ったとき、意識上、この体がもうなくなったと感じました。しかし、光と音の存在を感じています。どのように続けて修煉するのでしょうか？

師：入静した時にこのようにあのように、何かの状態に入るとあなたに教えたことはありません。こういうことはありません。心に重きを置いた修煉こそ、根本なのです。どの状態に執着しても、あなたを高い境地まで向上させることができず、相当大きな局限性をもたらすほかありません。無為に行うことは大法です。何かが見えたりすることには、これは正常な現象であり、何かの声が聞こえたのも、正常なことです。それを気にせず、執着もしないでください。

弟子：元神が身体から離れた時に、意念を持たずに、元神を飛ばしたほうが良いのでしょうか？ 最も高く美しく飛ぶようにと考えてもよろしいのでしょうか？ または姿勢を変えて、例えばベッドから起きて座ったり、仰向けになったりすることができるのでしょうか？

師：飛ぶことができれば、飛べば良いのです。横になりながら飛ぶのか、座りながら飛ぶのか、どのように飛んでも、好きなようにすれば良いのです。しかし、

それを面白いこととしないてください。何かのパフォーマンスをしてくださいと言っている人がいますが、私が何を披露しても、あなたは人間の考えでそれに対処し、笑ってしまうのです。あなたには佛法神通の本当の偉大な意味が分からないのです。ですから、このようにしてはいけません。このようにすることができても、それを普通の面白いこととしないてください。

弟子：元神が身体から離れた時、元々高く遠く飛ぶことができましたのに、最近高く飛べなくなりました。

師：あなたが執着したからかもしれません。修煉の中であなたをいつも同じ状態にいさせてはいけません。もし元神が頻繁に身体から離れ、あなたの修煉に影響してしまったら、それではいけません。あなたの修煉と次元の向上こそ第一義なのです。

弟子：私は先生の法輪大法に対して心から感服していますが、毎日先生の法像の前に果物を供えるべきだと言っている人がいます。

師：神はこの世で人を済度する時、実はものを食べていますが、人間のものは食べません。何を食べているのでしょうか？ ご存知のように、如何なる物体もそれと別の体が存在していると私は言ったことがあります。神はあなたの食物のほかの体を食べています。皆さんが弟子であり、私が師父なので、もちろん、私は遠慮しません。あなたが食事をする時、ご飯を出すと、他の空間では既に持っていきました。それらの有形のものにいたっては、このようにするようには私は教えていません。しかし、あなたにこういう気持ちがあつて、どうしてもやりたいのであれば、私も反対しません。それはあなたの気持ちです。私に叩頭する人がいますが、私に叩頭しなくても修煉が良くできていれば、あなたを見るだけで私はとても喜んでいきます。毎日叩頭していますが、修煉が良くできなければ、あなたを見てとてもつらい思いをします。こういう道理ではありませんか？ それは形式だけですが、あなたの気持ちの表れでもあります。

弟子：何かのことに悩んでいる時、一生懸命考えれば、ある答えを想像し出すことができます。時に頭に画面が浮かんできますが、これは良いことなのでしょうか？

師：これはあなたが常人のことをするときによく現れる現象です。常人の問題を考えるとときにいつも現れる状態です。もし修煉して法を学ぶ時でもこのようにしたら、少なくともこれは法に対する執着だと私は思います。仕事または生活の中の問題を考えるのは仕事ですが、修煉と区別すべきです。修煉の時それを放下し

て、何も考えないようにしてください。仕事の時には仕事に没頭すれば大丈夫です。画像や答えが現れるのは機能の現われです。

弟子：頭はいつも空っぽで、何も考えていないという状態は禅宗の空とはどういう区別があるのでしょうか？

師：これは大きな区別があります。いくら空っぽになっても、自分の意識を失ってはならず、これは私たちが言っている空です。これに対し、禅宗の空は何も無くなり、何も分からなくなり、修煉しているのが自分自身ではなく、本人が煉功しておらず、ただ静止しているだけです。ですから、禅宗の場合、他の人が修煉しており、副元神が修煉しているのです。

弟子：「現在の地球にいる人は皆人間になるべき人ではない」という先生の昨日の話に対してあまり理解できません。

師：これは人間の最も表面の殻から言わなければなりません。現在の人類（もちろん皆さんのことではありませんが、皆さんは既に修煉しているからです）は極悪非道ですが、皆いわれのある人であり、つまりこういう関係です。本当の人類、つまり以前の間人は、皆他の空間にいます。つまりあの世にいます。戦争で亡くなってから相次いであの世に行って、上の次元に転生していません。彼らは皆現在のこれらの身分のある生命によって、取って代わられ、人類になったのです。しかし、誰が来ても、人間と同じように迷わされ、同時に人類の腐敗堕落とともに墮落してしまいます。つまりこういう関係です。思い切って天のように大きな度胸で下りてきた人だけが、これほど次元の高く奥深い法を聞くことができます。しかし、全部法を得にきたのではなく、破壊しに来た人もいます。ですから、皆人間になるべきではない人だと言いました。しかし、全部修煉しにきたのでもなく、大法を破壊するために来た人もいます。このような人は地獄に打ち落とされるのです。さらに、既にだめになり、法を得ることのできない人もいます。法を得る資格のない人もいます。

弟子：私はデンマークから来た者で、カリフォルニア州で運良く法を得ることができました。私はデンマークに戻って弘法すべきなのでしょう。私はこの責任を負うことができないのではないかと心配しています。

師：これらのことを考えなくても良いのです。他の人に弘法する時に、多くの人には「この本はとても素晴らしい」と友達に勧めて、その友達は「そうですか、じゃ読んでみましょう」と言って、このように知らないうちに法を得たのです。皆とても簡単だったのです。簡単ではありますが、偶然ではありません。もちろん、

あることに気をつけるべきです。「私がこんなに素晴らしいと思っているのに、あなたはなぜ学ばないのか」と言うてはいけません。このように言うと、相手は「時間がないから、学ばない」、または「私は良いとは思っていない」と言うてしまうかもしれません。どうしても相手を学ばせたら、間違ってしまう。なぜ間違ったのでしょうか？ あなたは強制的に、無理強いして相手に法を得てもらいたいと思っているからです。無理強いしてはならず、本人の心が動かなければ、決して法を与えてはいけません。本人の心が動かなければなりません。言い換えれば、この法に対して申し訳が立つてからはじめて、読むことができるようになります。この道理ではありませんか？

弟子：「功が開き、悟りが開く直前に自分の功の十分の八をもぎ取って、心性の基準までもぎ取ってしまう」ということをどのように理解したら良いのでしょうか？

師：この理について既に話したことがあります。あなたの功をもぎ取る目的はあなたを圓滿成就させるためです。圓滿成就とは何でしょうか？ 基準に達するまで修煉し、あなたの功と福德も圓滿されているということです。佛はほしいものを何でも手に入れることができ、どんな能力も備わっていますが、この全てはどのようにできたのでしょうか？ あなたは自分が払った心血、つまり心性とともに存在している威徳、功によって構成され、圓滿されたのです。この全てがなければ天に昇ることができません。ご存知のように、佛体の周りにはある円があります。古い廟の中で描かれた佛は皆月の中に座っているようです。実は他でもなく、これは佛自身の世界です。この世界を圓滿成就させなければならず、さもなければあなたはないのです。功だけがあって、他に何もありません。これは佛とはいえません。人を救い済度するなどの良いことをしたくても、自分の世界を持っていません。必ず備わるようになり、自分の世界を持つようになってから、はじめてほしいものを何でも手に入れるようになります。

弟子：今日のような大法交流会がなければ、心性の向上はありえないと思いますが、これは正しいのでしょうか？

師：交流会は学習者を向上させ、学習者を促進させる上で確かに大いに役立っています。同時に弘法することもできます。この形式は非常に素晴らしいのです。このようにすべきだと思います。確かに精進していない人が他人との差に気づき、追いついてくるようにすることができます。しかし、交流会を開かなければ、法を得ることができないと言うならば、それは正しくはありません。法があるから、勉強することができます。法会は弘法と促進の作用を働かせることができ、確かに法

会を通じて法を得た人もいます。

弟子：今のこの時期、異なる次元の空間の神もこの法を学んでいると先生がおっしゃいましたが、これらの次元の中の高級生命が学んでいる経文は私たちが読んでいる経文と同じなのでしょうか？

師：絶対同じではありません。異なる次元に異なる法があります。この紙にある活字は人間に見せるためのもので、同じ法は異なる次元になると、文字と内涵まで完全に異なってしまいます。

弟子：魔がこの世に転生し、この世を乱しに来た時、高級生命はなぜ地獄の鬼の転生を許したのでしょうか？

師：鬼は皆地獄にいるというわけではありません。異なる次元に異なる次元の魔があります。相生相克によって存在している鬼もいれば、人間の業力が大きいからやってきた鬼もいます。また、法を乱すためにやってきた古い腐敗勢力もいます。

弟子：去年キリスト教の洗礼を受けましたが、今法輪大法こそが本当の大法だと分かり、法輪大法を修煉することに決意しました。両者の間に矛盾があるのでしょうか？

師：ありません。洗礼は人間が行っていることであり、神が行っているのではありません。神は人間の心を見ており、人間の如何なる形式も認めていないと私は言ったことがあります。

弟子：宇宙に成、住、壊があると先生がおっしゃいましたが、なぜ壊滅してしまうのでしょうか？

師：ご存知のように、食物はなぜ腐らないといけないのでしょうか？ 人間はなぜ老いてしまうのでしょうか？ 鉄はなぜ錆びてしまうのでしょうか？ なぜ石まで風化してしまうのでしょうか？ つまりこういう意味です。ただ、宇宙の壊は更に長い時間がかかります。時間の長さが違い、相当長いのです。人間にとって不思議であり、壊滅することなく永遠に存在しているように感じます。

弟子：この二ヶ月来、魔の妨害から抜け出すことができず、下品な言葉が聞こえてくるし、夢の中で日常生活の中で良くない信息に妨害されています。

師：本を多く読めば、どんな問題も解決されます。先ほど本を多く読むようにと言いましたが、私が言ったこの話の内涵を理解できないかもしれません。この本

に何でもでき、できないことはないのです。自分の主意識を強める時はつまりあなたの中の業力を消しているのです。この状況が現れた人の多くは、思想業力のわりと重い人であり、主意識を強めることに特に力を入れるべきです。

弟子：自分一人で本を読んでも煉功しても問題はありませんが、煉功点に行くと、政治学習をしているような気がします。

師：多分心の中の政治学習に対する反感、抵抗の心理が強すぎたからです。形式の問題ではなく、内涵を重視すべきです。これも強い執着ではありませんか？ 反抗心という執着ではありませんか？

弟子：法輪大法の紹介を出版物に掲載するのは大法の一部から意味を取っていることなのでしょうか？

師：この紹介は私の法から抜粋したものではなく、ただの紹介であれば、大法の一部から意味を取ることにはなりません。つまり私のこの法を概括的に紹介しています。以前このことをしたことがあり、する度に非常に厳粛にやっていました。皆何度も何度も熟慮してから行ったのです。

弟子：寂しさは修煉にとって最も危険な敵であるということをどのように理解すべきなのでしょう？

師：寂しさは人間の全てを台無しにしてしまうことができるということを皆さんは知らないのです。以前の和尚は修煉の中で何を頼りにしていたのでしょうか？ なぜ圓滿成就することができるのでしょうか？ 和尚にとっての最大の苦しみは他でもなく寂しさなのです。和尚はどういう苦を嘗めていたのでしょうか？ 耐え難い寂しさです。以前山に入って道を修めた人はなぜ道を得ることができたのでしょうか？ 世の人々は栄耀栄華を極めています。そうではない人、お金のない人は少なくとも親戚友人がおり、この世での楽しみがあります。一人で山で苦しく修煉して、人間と接触していない耐え難い寂しさは人間の多くの執着心と各種の欲望を磨き取ることができます。もちろん、私たちはこの道を歩んでおらず、私たちは人間の心をまっすぐに指し、最も速い道を歩みました。昔のように何十年も修煉していたら、間に合わないのではないかと私は思います。

弟子：精神病患者は講習班に入ってはいけませんが、妄想や強迫神経症、恐怖症などの患者も精神病患者に当たるのでしょうか？

師：実は皆さんに教えますが、人類が言っている精神病は私の理解とは違います。私が言っている精神病は主元神が身体を司らず、如何なる外来の情報と生命もが

彼をあれこれするように制御することができます。人間の業力も彼にあれこれするように制御することができます。業力が彼の頭の中で人を罵らせたり、悪いことをさせたりすることができます。人間はこのような人を精神病患者と言っています。精神病患者には傷とウィルスが全くなく、どうして病気と言えるのでしょうか？ これは人間の異常現象に過ぎません。しかし、私たちの大法は人間を済度するためのものであり、主元神を修煉させています。主元神が何も決めることができなければ、法を誰に与えれば良いのですか？ ですから、そういう人を来させないようにしています。彼を支配しているのは業力または憑き物であり、彼の業力と憑き物を済度して良いのでしょうか？ つまりそういう関係です。しかも、法輪功をやって気違いになったと言われ、私たちに大きな損失をもたらす恐れがあります。

弟子：恋愛をすると、多くの執着が生じてしまいますが、彼と別れたほうが良いのでしょうか？ それとも自然に任せて、結婚して子供を生んだほうが良いのでしょうか？

師：実は私は既に話しましたが、人類はこれから続いていかなければなりません。もし今日の大法弟子が一億人ではなく、数十億人であれば、深刻な問題になるのではありませんか？ こういうことではありませんか？ 最大限に常人に符合して行うようにと教えていますが、実は皆さんはこのようにすることができ、ただ自分に対して必要以上に要求しているだけです。もちろん、自分に厳しく要求することに私も反対はしませんが、できるだけ常人に合わせて行ったほうが良いと思います。人為的に行ってしまうと、社会が私たちを理解することができなくなり、法が損失を蒙ってしまいかねません。また、その境地に達することができず、あなたはその気持ちに堪えなければならないという苦痛も現れます。本当にその境地に達していれば、私は反対はしませんが、その境地の基準にまだ達していない人はできるだけ自然に任せたほうが良いと思います。

この関係を正しく扱いましょう。本当にあなたの全ての情を全部取り除いたら、あなたは本当に恋愛することができなくなります。しかし、この状態に達するまで、やはり人類の状態に従って行ってください。あなたが結婚したから、落ちてしまうということも決してありません。こういうことはありません。

弟子：もし前世が動物であれば、今生の修煉で世間法から出ることができるのでしょうか？

師：例を挙げましょう。ある人は非常に高い次元からやってきて、毎回の転生は

必ずしも人間になるとは限りません。これになったり、あれになったり、ここま
で転生してはじめて人間になったのです。人間になる前、動物に転生したことが
ありますが、あなたが動物であると言ってはいけません。六道輪廻の中にいるだ
けであって、本当の生命が何なのかが最も大事なのです。

弟子：本を読み、法を勉強する時に何かを悟ったこともあれば、二、三回読んで
も何も悟らないときもあります。

師：意識的に何かを悟ろうとすれば、きっと何も悟ることができません。この本
を手にとってただ読めば良いのです。これは「求めずに自ずと得る」ということ
です。昨日も言いましたが、何かの問題にぶつかったら、それと関係のある部分
を探して読もうとしないでください。その部分を見つけることができません。多
くの場合は「求めずに自ずと得る」ということなので、本を手にとってめくって
みれば、きっとあなたが読みたいところが出てきます。このように話したら、「じ
ゃ、これから本を読む時に気の向くままにめくれば良い」と思ってしまう人が出
てきます。これもまた執着であり、その部分の内容は出てきません。これも求め
があって行っているのであって、ただ形を変えただけです。

弟子：私たちは先生と法輪大法を固く信じていますが、最近大陸でいくらかの厄
介なことが起きたそうです。どのように対処すべきなのでしょう？

師：私が法を伝え始めたその日から、厄介なことが絶えませんでした。なぜでし
ょうか？ 正法が伝わってきたら、邪なものに妨害されず、または誰もが理解す
ることができれば、これは人間のものと同じレベルのものになります。そうでは
ありませんか？ それなら、人間を濟度することができなくなります。理解する
ことができない人、または邪なものはこれが正法だと見て、妨害してきます。こ
の法が伝わってきましたが、この世でどのように伝わっているのか、どのように
人間を濟度しているのか、妨害に遭ったとき、大法と私がどのように行ったのか、
正しく歩んだかどうかは、極めて重要なことです。これは法が正しいかどうか、
人間を濟度することができるかどうかのことに直接関係しています。この道理で
はありませんか？ ですから、厄介なことは絶えませんでした。私たちの一歩一
歩は皆正しく歩み、ひいては少しでもあらを見つけたら大々的に攻撃しようとする
人も私たちの誤りを見つけられなかったのです。私たちはこの上なく正しく歩
んできました。ですから、このように歩んできました。このように様々な試練の
中で私たちの威徳を築き上げたからこそ、後世の人々に伝えるもの、教えること
ができるものがあり、様々な魔難を乗り越えてきたから教訓と経験を後人に残す
ことができました。これではじめて、威徳が備わるようになりました。そうでは

ありませんか？

弟子：常人の中で修煉するとき、できるだけ常人の状態と一致して修煉するようにと師父はおっしゃいましたが、アメリカで弘法する時に登録した機構がないから、何かをする時に不便です。

師：アメリカで大法学会を登録しました。しかし、この学会を常人の中の機構として運営してはいけません。この学会は法のために合法的な煉功環境を作り、皆さんの合法的な修煉を保障しているだけです。これだけです。決して学会そのものを仕事としてやってはいけません。私は大道無形と言いましたので、心を如何なる仕事のために使ってもいけません。今日行われたこの法会も、修煉と結び付けて行われたのであって、ボランティア的な組織なので、学習者はお金を取っていませんが、宗教ではありません。

弟子：私は一人暮らしをしており、他の人との接触も少なく、家族は皆中国国内にいます。時間があれば、家で法を勉強していますが、この修煉環境は・・・。

師：どのように修煉しても大丈夫です。ただ心の中で時々刻々自分を修煉者として見なし、勉強し煉功していれば、取り残されてしまうことはありません。外に出て修煉したほうがなおさら良いのです。

弟子：人間の修煉全過程において各種の情報の妨害を取り除かなければならないのでしょうか？

師：もし煉功の時に本当に何かの音が聞こえたり、または頭の中に何かの情報が現れ、あなたを妨害する念があったりすると、それを排除しなければならず、強いものに対してそれを第三者、他の人の考えと見なし、あなたとは関係がないと思ってください。なぜこのようにあなたに教えるのでしょうか？ あなたのものであれば、あなたの言うとおりになります。あなたの腕と足、手と口はあなたが思うままに動かすことができます。なぜでしょうか？ それはあなたのもだからです。入定する時、どうしても静かにならないその考えは、静かになりなさいとあなたが命令すればするほど、静かにならないのです。これはあなたなのではないでしょうか？ それが自分だと認めてよいのでしょうか？ それはあなたが後天で形成した観念と業力です。ですから、あなたはそれを第三者として見れば良いのです。考えてもよい、静かにならない考えを見てみるとあなたは思えば良いのです。その中から出てきて、本当にわきまえることができれば、それらのものと一線を画したことになります。これによって、あなたは本当の自分を見つけたのです。これも修煉です。このようにすると、すぐに消滅することができます。本当にそ

れが自分ではないとわきまえることができれば、観念と業力が恐れてしまい、もうすぐ消滅されてしまうのです。

弟子：『轉法輪』は後世の人に残すためのものであり、中に先生の写真がありますが、先生はまた将来の人々が先生の姿かたちを知ることはないとおっしゃいました。

師：『轉法輪』は後世の人に残すためのものではなく、未来の人は『轉法輪』の存在を知らないのです。私は高い次元の法を説き、多くの天機を漏らしましたが、法を聞く人が将来本当に圓滿成就したら、神だけに教えたことになるのではありませんか？ 人間はやはり法を知らないのです。ですから、私は皆さんにこのように教えたのです。皆圓滿成就できるように望んでいます。

本のことには、非常に簡単に処理されます。ある時に文字が全部消え、真っ白の紙になるようにすることができます。

弟子：一行や一文が抜けている『轉法輪』をどのように扱うべきなのでしょう？

師：海賊版の『轉法輪』にこのようなことが多くあります。皆さんくれぐれも気をつけてください。言葉や一行が抜けているところがあれば、手で書いて補ってください。今後このような内容の抜けている本があれば、買わないでください。つまり、レーザー製版の本を買ってもよいのですが、製版しなおした本を決して買ってはいけません。

弟子：様々な気功を練習した学習者は大法を宣伝する時に、人々を引き付けるために以前何を練習したかをまず紹介しています。

師：このような常人の心のある人が私たちの中にいます。しかし、この人が悪いとは言ってはいけません。この二、三日の発表の中で、自分の以前のことをいつも口にしている人がいます。しかし、全体から見れば、皆さんが発表した内容はとても良かったのです。ただ常人の心が現れた人がいるだけです。大法を弘めるとき、以前学んだものを全く口にしてはいけません。なぜならば、あなたは既にそれらのものと縁を切ったのであって、もうあなたのものでなくなり、あなたが得ようとするものでもありません。今また口にしたら、第二の法門または他の法門を宣伝することになるのではありませんか？

弟子：輔導站がお金を貯蓄してはならないという規定についてもう一回ご説明をいただけないでしょうか？ アメリカという商業の社会では、何をしてもお金が

かかるのです。

師：皆さんに教えますが、輔導站はお金を決して貯蓄してはならないという規則を誰もが変えてはならないのです。今本を売ったから残ったお金を何かのことに使ったら、お金を使っていないように見えますが、やはり使ったのです。このまま続くと、きりが無いのです。これで財物を貯えることになります。実は皆さんに教えますが、私たちは弘法をする時、小額のお金の場合、能力のある学習者は払ってくれると思います。今日のこの大きな会場もある学習者が一人で払ったのです。皆さんに法を得てもらうために、良いことをしました。彼は更に多くのものを得るかもしれません。しかし、私はくれぐれも道を正しく歩まなければならない、という意味を言っているだけです。必ずこの道を正しく歩んでください。

弟子：次元が高ければ高いほど、本源物質に近いのでしょうか？ これでは天女が花を散らす時に菩薩の身体を通り抜けることができますが、羅漢の身体を通り抜けることができないと言うことの説明がついたと思います。

師：この意味ではありません。あなたが言っているのは物質の差異であり、私が言っているのは境地と果位の差異です。もちろん、果位の差異によってあなたの体の顆粒に差異がもたらされ、これは間違いのないことです。しかし、顆粒の差異は前提条件ではなく、心性の高さ、果位の高さこそが前提条件なのです。

今日の質問はほぼ終わりました。新しい学習者は法を多く読むべきです。学びたければ、修煉したければ、本を読んでください。私たちはめったに法会を開きませんので、初級的なものを説いたら、今回の法会が無駄になり、皆さんは聞くべき内容を聞けなくなります。法会を開く目的は皆さんが更に速く向上し、一日も早く圓滿成就できるようにするためです。同時に法が更に広められ、多くの方が法を得ることができるようになるためです。ですから、今回の法会の後、皆さんは大きく向上すべきだと思います。同時に、まだ法を得ていない多くの人々に法を得てもらうようにすべきです。皆さんに教えますが、白人の中に、他の人種の中に済度され得る多くの方がまだ法を得ていません。もちろん、皆さんに強制的にこれらのことをさせませんが、できる程度まで行ってください。法は縁のある人を済度しており、私たちは善を勧めることしかできず、無理強いを相手に修煉させることはできません。こういうことです。皆さんが更に速く向上し、一日でも早く圓滿成就することができるよう期待しています。

